



ハムのワクワク神智学(2)?!



「ハムのワクワク神智学(1)」では、太陽系(宇宙)は7つの界層より構成されていて人もまた、肉体とエネルギー体とで出来た7つの界層を持つ、マイクロコスモス(小宇宙)であることがわかりました^^

それは、地上の人の中心である“ハート”(アストラル体)と“魂”(メンタル体(コーザル体))から、太陽ロゴスへさらに宇宙の根源(太陽)まで続く、愛の進化(アセンション)の為にステージとも言えるのだと思います

エーテル体は肉体の鋳型であり、生きていく上で欠かすことの出来ない、“生命エネルギー(プラナー、太陽の光)”を、

肉体内部へと循環させる、重要な役割を持っていることがわかりました

またアストラル体は、様々な感情の媒体とされ、人生に感動と彩りを与えてくれるものと感じます

今迄見えていなかったものに気づき、意識が拡大されていくに従って、地球に対する考え方も大きく変わった気がします

地球は、人類の学びのステージとして、私達の気ままな“思い”と“行動”を、ずっと支え続けてくれました

けれど地球も、私達と同じ物質であり、限度を超えれば耐えきれなくなり、崩壊へと向かうしかないのだと思います

目先の利益のみを優先した環境破壊によって、自然界の生き生きとした循環システムを壊し

ネガティブな想念(感情・思考)の放出によって、土や水や大気を汚し、生命エネルギーを^{こぼ}らしてしまう等

どれほど地球が頑張っても、このままではもう限界——、という所まで来てしまったようです

そして、とうとう地球という惑星自身のアセンションがはじまった?!

地球の決意は、ここに生きる全ての生命の為にあるのだと思います

私達はもう見て観ぬふりをしない!この地球と一緒に進化(アセンション)する!!

地上に生まれた多くの方が、真の自分(魂)のレベルでは、そう決意して、今ここにあるのではないのでしょうか?

その自覚が一人一人の顕在意識となる事によって、地上世界は大逆転する!!!!

私達にはそれだけの力がある！！！！と、私は信じます！！！！

私達の感情の世界であるアストラル界には、未来への大きな可能性が潜んでいる事がわかりました^^

アストラル体より更に波動が高いとされるメンタル体は、どんな偉大なパワーを持つのでしょうか

『ハムのワクワク神智学』第二弾！！ はじまりです！(*^^*)

(※『神智学大要』を参考にさせていただいたもので、神智学そのものではありません<(_>)

◇メンタル体

「我々はまず第一に、精神体(メンタル体)を、真我が具体的な知恵として顕現するための媒体、

記憶力と想像力とを始めとする、もろもろの精神力が展開するための媒体、

進化の後期に入ると、肉体やアストラル体からは全く分離して生き、かつ働く意識の媒体として、研究してゆく。」

メンタル体は、精神体とも言われ、「思考・精神」を司る媒体とされます

人は、内から自然に湧き起こってくるかのような、様々な感情や意欲＝“アストラル体”と

それらを上手にコントロールして、賢く充実した人生をおくるための精神力(知性)＝“メンタル体”の

両面のバランスが大切だと思います

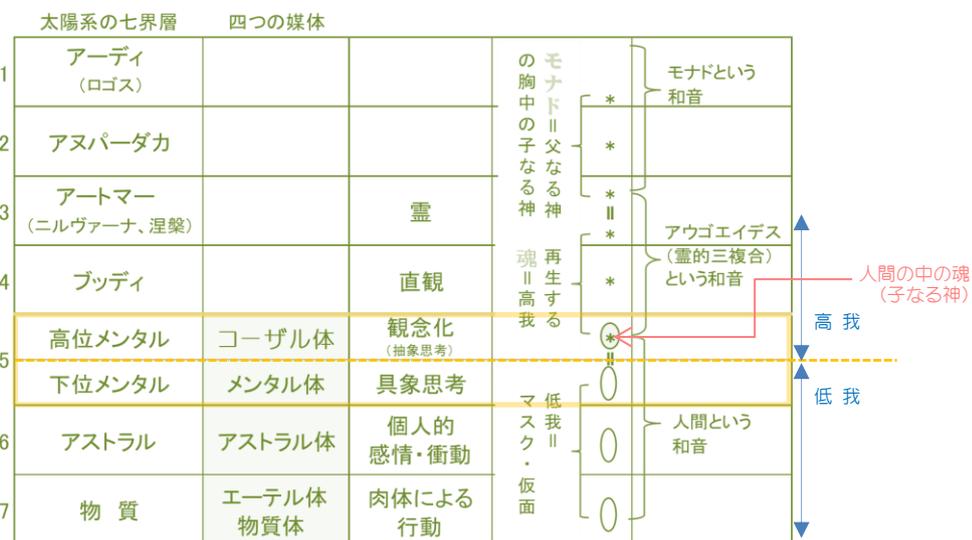
肉体、アストラル体、(下位)メンタル体までが“低我”と呼ばれ、私達の日常の意識状態とされていて

上文を初めて目にした時、すごく難しく感じられたのは、メンタル体のさらに上の界層である“コーザル体”(真我)

＝“高我”の視点になっているからなのだと、わかってきました

ここで、「ハムのワクワク神智学(1)」に記した<<人間の構造>>図を、もう一度振り返ってみたいと思います

<<人間の構造>>



人間は肉体という衣をまとう、物質界の存在ですが、“マイクロコスモス”といわれるように、“意識の進化”という過程でみると、太陽系の7界層であるとも言えます

この7つの界層は、大きく3つに分類する事ができ(後述)、

アーディ界とアヌパーダカ界は、ロゴス(神)の

アートマー界、ブッディ界、高位メンタル界は、超人(高度に進化した人)の

下位メンタル界、アストラル界、物質界は、普通の人意識の場とされ、トータルで「人間の構造」です

ここで思い出されるのが、以下、『天の岩戸開き』Ai著一の中の言葉です

真の神智学を学んでいる方はご存知かと思いますが、様々な意味において、「人」(霊止、日戸)は究極の宇宙の雛型です。(実は「人」こそが重要で、すべての鍵なのです。)

一人一人の「魂」は、根源の神の全き分身、分御魂です。

人は進化すると、マスターや大天使となっていき、やがては惑星神そのものへと至ります。

同様に、惑星は太陽に、太陽は銀河に、銀河は宇宙へと進化していくのです。

人の進化とは、極まれば真の宇宙そのもの、宇宙創造主へと至るための、悠久の道のりなのです。

“人”は、太陽系の7つの界層の最下段である物質界にのみ生きる、ちっぽけな存在ではありません。進化の段階は人それぞれですが、極まれば、宇宙創造主へと至る、∞の可能性に満ちた存在なのです！

宇宙創造主?!と聞かれると、かけ離れ過ぎていて、真実味がない。。。 (笑) ?

それに比べれば、私達の魂が存在する次元(5次元以上) = 高位メンタル界は、すぐそこ!と思えてきませんか? ^^

5次元とは、愛と光100%の世界!と聞かれ、高次の世界の条件とされ

小さなことにクヨクヨしないで、明るく前向き(ポジティブ)に生きる事が鍵でもあります^^

「ハムのワクワク神智学(1)」で学んだように、ネガティブな感情は、下降の進化の為に選択した意識であり、

決して自分だけが抱えている、特別なものではありません

上昇の進化(アセンション)に入った今は、全く必要ないし、選択しない!と固く決意する事が重要で

何が何でもやったるで~~!の意気込み(スッポン根性)のみ(笑)と感じます^^

太陽系7界層のうちのメンタル界は、大きく二つに分かれていて

私達の魂(真の自己)の住まいである、高位メンタル界(=コーザル体、第1~第3亜層)と、

魂(高我)が地上で生きる為の媒体(低我、現象我)のトップである、

下位メンタル界(=メンタル体、第4~第7亜層)です

『神智学大要3.メンタル体』は、主に、下位メンタル体(具体的思考)について記されています

「密教心理学においては、人間の理解の道具は明らかに二つの部分に別れている。

すなわち、(a)特殊なもの、すなわち具体的な想念や思想、たとえば

特定の本、特定の家屋、特定の三角形などといったものを扱うメンタル体と、

(b)書物一般、家屋一般、あらゆる形の三角に共通な三角形という原則といったような、

抽象的想念ないし思想を扱うコーザル体の二つである。

そのような次第でメンタル体はルーパ、すなわち形態にまつわる想念、あるいは思想を、

コーザル体はアルパー、すなわち形のない想念ないし思想を扱う。」

思考・精神(メンタル界)を二つに分類する事は、私にとっての新発想でしたが、なるほど、

抽象思考(全体)は、たくさんの具象思考(個)の上に初めて成り立つ、それらの真髓(本質)と感ずるので、

どちらも大切であり、人がメンタル体(具象思考)と、その上にコーザル体(抽象思考)という

二つの媒体を持つことが、意識の進化のシステムとして、とても納得できました

ここに、コーザル体の主である“魂”(真の自己)の本質とは、個(具象)ではなく全体(抽象)であり

「ワネスの意識(愛)である事が理解されるのではないのでしょうか?

《 メンタル体の構成 》

「メンタル体は、メンタル界の四つの下位亜層の粒子によって構出されている。

このクラスのメンタル質料は、アストラル質料中の四下位亜層、

および物質界層の固体、液体、ガス体、およびエーテル体質料に相当する。」

「肉体は無数の細胞から成り、各細胞は神の第二側面より出ている、第二流出によって生気を与えられた、個々の微小なる生命体である。このことはアストラル体とメンタル体とにもあてはまる。これらの各体に充流している細胞には、まだ智慧といったほどのものはなく、ただ前章で見た、質料の中へ押し入ろうとする、強い本能的な下降力があるだけである。」

「質料の中へ押し入ろうとする、強い本能的な下降力」とは、『ハムのワクワク神智学(1)』で述べた第二ロゴスの生命である、エレメンタル・エッセンス(髄質)の事です

「ここで大事なことは、アストラル界層およびメンタル界層では、エレメンタル・エッセンスは両界層の単なる質料とは、全く別のものであることを把握することである。もうひとつ極めて重大な点は、メンタル質料とアストラル質料とを賦活している生命は、進化の下降(逆進化—訳者)弧、すなわち外向弧の上にあることである。

この両者の質料にとって進化とは、より稠密な形態の中に入り、この形態を通じて、自分自身を表現するのを学ぶことである。ところが人間の場合の進化とは、これとは逆である。

彼はすでに質料の中に深く沈み込んでおり、今やその質料から抜け出て、自分自身の根源に向かって上昇しつつある。従って内なる人間自身(真我)と、彼の器である、各種の体の質料を住み家とする生命との間には、不断に利害の矛盾がある。」

とあり、物質界やアストラル界、メンタル界においては、下降の進化の流れ(ディセンション)があつて人が今歩みはじめている上昇進化(アセンション)とは、逆向であることを、

キチンと頭に入れておく必要があるのだと思います

一人一人が、真の自分とは、

「自分自身の根源に向かって上昇しつつある」高我(魂、真我)であるという自覚を、決して失わない事
メンタル体は、低我に振りまわされるのではなく、

「真我が具体的な智慧として顕現するための媒体」であるという、強い信念を持ち続ける事が大切だと思います

「メンタル体の粒子は絶えず動いている上に、絶えず変化し、貯蔵庫とでもいうべきものから、自動的に質料を引き出しては、メンタル体の中にすでに存在している組み合わせ状態を、維持する。

メンタル粒子はお互いに烈しい速度で動き廻っているのかかわらず、バラバラにもならず、メンタル体全体としては、一種のゆるやかな組成体を成している。

その中には、幾つかの部分に別れている、ある種の細かい筋があり、

それぞれの部分は、肉体脳のある部分に相当する。

そのため、あらゆる型の思考・想念・思いは、それを司る部分を通じて働くことになっている。

しかしメンタル体は、普通の人の場合、発達が不完全であるため、前述の特殊の働きをする区分の大部分が、まだ活動するに至っておらず、そのため、元来はそういう区分に所属する、考えや思いを起こそうとしても、その働きを司る区分が不活動なため、たまたま全開している、

他の不適當な経路を大廻りしなければならない。

その結果、その事柄に関する思考は拙劣となり、筋の通らないものとなってしまう。

—— ある人は数学に秀でているのに、別の人は単純な数学上の思考さえできず、

ある人は本能的に音楽を理解し、鑑賞し、楽しんでいるのに、

別の人は音痴であるという理由もここにある。」

どうして私の頭がこのような状態なのか？(笑)が、よくわかりました
メンタル体の発育不足により、正規の回路がつながっておらず、
常に不適切な回路を、大回りしているのです^^;

「メンタル体の構成要素は、その人の到達した知的発達程度に応じて、大なり小なり精妙である。
それはみるからにすぐれて美しく、その粒子の微妙さと急速な運動は、燦然たる生ける光となり、
その人の智慧がますます高く進化し、その智慧が清純にして高尚なることに用いられれば用いられるほど、
その美しさは、この世ならぬ光を増し、魅入られるばかりとなる。
後章でも解るように、人間が何かを思う都度、それはメンタル体に波動を巻き起こし、
ちょうど滝の水のしぶきに、日光があたった時のような光彩、
それも色といい鮮烈なる微妙さといい、虹に似て、しかもその何倍かの光彩を伴うのである。」

○メンタル単位(ユニット)と光線

「メンタル体には、すべて第四メンタル亜層のうちの一コの分子、
すなわち一単位(普通メンタル単位という)があり、
それは、彼の全生あらゆる生まれ変わりを通じて、彼につきまとう。
研究を進めてゆくうちにいずれは解ってくるが、メンタル体の質料は、生まれ変わるつど、
世々生々散じてはまた集まるという、離合集散を繰り返すのであるが、
メンタル単位だけは、あらゆる生を通じて変わらず、安定した中心となって残り続ける。
このメンタル単位は、メンタル体の中枢と見てよい。
メンタル体全体としての姿は、大部分はこの単位のそれぞれの部分の、相対的な働きによって決まる。」
「メンタル単位はもちろん、質料の七つの大いなる「型」、すなわち「光線(レイ)」に属する。
ある人の恒久原子全部と、メンタル単位とは同じ「型」、
すなわち同種の「光線」に属することは、注意しておかなければならない。
故にメンタル体のメンタル単位は、コーザル体とアストラル体とエーテル体とにおける、恒久原子に相当する。
恒久原子とメンタル単位は、各体がそれぞれに遭遇し味わってきた、あらゆる体験の結果を、
波動をおこす力として、自分自身の中に保持するために使用される。」

恒久原子については、『神智学大要2. アストラル体』の中で
「生まれ変わるごとに、肉体、幽(エーテル)体、アストラル体、下位メンタル体は造り変えられるが、
その際、各体の素ともいべきものが、それぞれの「恒久原子」で、この原子の回りに
当該界層の質料が引き寄せられて、それぞれの新しい体となる」とあります
高位メンタル体(コーザル体、メンタル界第一亜層)の恒久原子を、メンタル恒久原子と呼び、それと区別して
下位メンタル体(メンタル界第四亜層)にある恒久原子を、メンタル単位(ユニット)と呼ぶようです
恒久原子(とメンタル単位)は、輪廻転生における履歴書のようなイメージですね^^

「ある人の恒久原子(とメンタル単位)は同じ型、すなわち同種の光線に属する」とあります
私はアセンションに出会うまで、“光線”とは、美しい光というだけで、
その意味(働き)や、“神”との関連について、考えたことがありませんでしたが
『神智学大要3. メンタル体』の中に、光線(レイ)について、下記のように説明されています
「一条の太陽光線がプリズムを通過すると、七つの色の光条(レイ)に分岐する。
そのように、ロゴスの(人間的表現をすれば)性質(徳質)が、もろもろの界層において、

各異なる徳質となって分岐するのを光線(レイ)といい、
さらに一つの光線(レイ)が、また七つに再分岐したものを亜光線(レイ)という。」
と説明されていて、光線とは、神(ロゴス)の一徳質(=働き)を表すものであることがわかりました
全ての色(働き)が統合された真っ白な光は、神そのものであり、神界の象徴とされます
白い光の分光である、色とりどりの“光線”は、神の手助けをするために創造された、天界の事でもあり、
スピリチュアル・ハイラーキーや天使等と呼ばれる存在が、活動する場と言われます
“魂”は自己の最初のハイアーセルフ(高次の自分)であり、地上セルフ(地上の自分)と根源(神)の間には
“ハートと魂”を通して繋がることのできる、次元の異なる様々な高次が存在しているとされます
これまで、真っ白な光=“神界”(マルテン宇宙)しか見えていなかった私の前に、突如
∞の色彩(徳質)に美しく輝く、荘厳な“天界”(ピラミッド宇宙)が現われ出たような、驚きと感動を覚えました^^
光線は7種だけでなく、12、24、36種等様々あり(次元に対応?)、感じる光線の種類によって
自分がどのような高次とつながっていて、
どのような働き(特徴)を持つ存在なのかを知る、手掛かりとなるようです
光線の例として誰もが知っているものに、太陽の光が7色に分かれ出る“虹”があります
少しネガティブになりかけていたある日、ドアを開けると、眼前に美しい虹の光景が広がっていて
一瞬で雲(心の陰り)が吹き飛び、全身が喜びのパワーに満ち満ちていくのを感じました
虹はただ美しいというだけでなく、細胞をリフレッシュさせ、元つ気(元気)に帰す、莫大なエネルギーなのだと思えます
太陽ロゴスと7惑星ロゴスからの、力強いエール?! のようでもあります^^

《 メンタル体の機能 》

「第五亜人種の現在の発達段階では、他人の弱点は搾取の場であり、奴隷化の対象であり、
踏みにじるべきものであり、その自助に手を借すためではなく、
それを踏み台にして、自分が伸びあがるためのものとなっている。
とはいうものの、その初期の発達段階では、それはたしかに不愉快ではあっても、
精神の発達としては必須ではあった。
なぜなら、真の進化のためには、真の批判精神が絶対に必要だからである。
第五根人種の第六亜人種も、第六根人種も、
主として霊性の発達、総合、同情、積極的奉仕精神が、その強い特徴となるであろう。」
第五亜人種とは、ロゴスの進化の計画に基づいて創造される
7つの根人種(と各7つの亜人種)の中の一つで
現代の人は、第五根人種の第五亜人種レベル(テーマはマナス=知性の発達)であるとされます
私がこの文面を選択したのは、職場で感じていた事の答えがあったからです
人を非難している光景を見るのは、心が痛み、どのように対応すればいいのか? 悩む事がありました
けれどそれは、進化にとって必要な過程なのだと思える事で、双方に対する思いやりが持てる気がします
みんな進化するために、頑張っている!
霊性の発達、統合、積極的奉仕精神の時代が、もうはじまっているのだと思えます^^

「抽象的思考は、真我が高位精神体すなわちコーザル体を通じて、真我自身を顕現する働きの相であり、
具象的思考は、真我がメンタル体(下位メンタル体)の中で働いている相であることがわかる。」
「具体的にものを考えると、メンタル体の質料が波動をおこし、この波動はいわば一オクターブ下げられて、

アストラル体のより粗雑な質料に伝わり、次に脳のエーテル粒子が影響を受け、
最後にそこから稠密体である肉体(脳)の濃密な、灰白色の質料を動かすことになる。
想念が肉体の脳に意識として翻訳されるまでには、以上の手続きが次から次へと取られるのである。」

「意識が非我から真我へと内向する過程を、大雑把に分析してみると、
まず初めに、外界から肉体への接触が行われる。

この接触はアストラル体によって感覚として翻訳され、感覚はメンタル体によって知覚表象に変えられ、
知覚表象は錬られて概念となって練持され、これがいわば型となって将来における思想や想念の材料となる。」

私達の毎日が、肉体(とエーテル体)と、目に見えないアストラル体、メンタル体、コーザル体の
連繋プレーによって成り立っているのに、どうして、肉体の事しか知られていないのか？
教えられていないのか？本当に不思議と思うのは、私だけでしょうか？

第六感(官)という言葉をよく耳にしますが、
これは肉体(五官、五感)より高い波動の、精神(メンタル)体の感覚で
「インド人は精神(マインド)を、第六官であるといっている。

それは、五官を通じて入ってくる諸々の感覚を、精神が取り入れて、それを結び合わせて一つの知覚となし、
それでもって一つの観念をつくるからである。」

「精神体は精神界の事物に、いわば直接に、かつまた精神体の表層意識全体でもって接し、
印象を受ける一切の事物を、精神体全体で意識する。

したがってメンタル体には「見る」、「聞く」、「触れる」、「味わう」、「嗅ぐ」だの、専門の器官というのはない。」

との事、肉体脳は五感(官)で受け取ったもの以外は認識できないため、意識に限界が生じてしまうとあります

その他、“記憶”や“連想”がどのようにして起こるかが説明されていて、日頃何気なくやっている事が
顕在意識では考えられない、緻密でスピーディーな働きである事に、あらためてビックリします
人体とは、とても高度なシステムであり、これだけの事を、全ての人が、それぞれ当たり前に行っており
そう考えると、自己の肉体の主であり、現実の創造主とされる“魂”(ハイアーセルフ)の存在が
よりリアルになってくる感じがします

エネルギー世界の探求・実践によって、意識が進化し、ハイアーセルフと一体化する事が出来たら
私達には、想像を絶する可能性の扉が、開かれていくのではないのでしょうか^^

メンタル体の主な機能を箇条書にすれば、次の通りである。

①真我が具象的思考をするための媒体となる。

②そのような具象的想念を、アストラル体、エーテル脳および脳脊椎系統を経て肉体に伝え、肉体を通じて表現する。

③記憶力と想像力とを発達させる。

④進化が進むにつれて、メンタル界層における独自の意識器官となる。そしてやがては

⑤地上における各生(生まれ変わり)ごとに集積した体験の結果を同化し、
その粋をコーザル体内にいる真人に伝えること、である。

メンタル体の活性化(訓練)によって、どのような事が起こるかが説明されています

「ちょうど肉体やアストラル体のように、メンタル体もまた訓練すれば増大し、使用しなければ麻痺し、
ついには崩壊してしまう。メンタル体内に起こった波動は、その構成要素に変化をもたらし、

同調した波動を起こし得ない質料を弾き出し、

周囲の事実上無限といってよい質料の貯源から、適当な質料を引き出して取り替える。」

「霊的に発達した人になると、粗雑なメンタル質料の組成はなくなり、

四つの下部亜層の質料のうちでも、精妙なものだけを含むようになり、
その中でも第四と第五亜層の質料の方が、第六、第七亜層の質料よりも多くなる。
このようにして彼のメンタル体は、知性のあらゆる高度の働き、高度の芸術作品の微妙なタッチ、
高度な感性の、純粹なる戦慄に感応するようになる。

そのような体は、コーザル体内に住する真人、真の思考者からやってくる、あらゆる衝撃を、
いつでも再現できるようになる。

靈的な人のアストラル体とメンタル体は、四ないし五つの立派な感情を不断に現わしていなければならない。
それは愛、献身、同情、知的求道心である。」

メンタル体の働きについて考えているうちに、まるで私達は精密機械なのでは？

とも思えてくるのですが、やはり、それとは決定的に違うのです！

愛、献身、同情、知的求道心は、輪廻転生を繰り返しながら進化しつづけてきた人の、血と汗と涙の結晶であり
それらを生かし切ることでできる魂の存在が、真の人＝日戸、靈止なのだと思います

地上社会での不思議な事の一つに、愛を基本とするはずの宗教間の争いがあります

信仰心を持つことは、尊いことであり、知的な感じがしますが、何故なのだろう？と考えてみると
それらの宗教の教え(精神)は、下位メンタル界が中心となっているからなのかもしれない…としました

キリストの現わした“普遍の愛”についての理解が、不完全なのでは？という事です

“愛”はすべての根底にある、あらゆる全てを包み込む、無限で、抽象的(コーザル体の愛)なものですが、
具象思考(メンタル体)では、その全容を捉えきれず、

自己中心的、条件付き“愛”となってしまうのではないのでしょうか？

神は、ただ“愛”なので、神の心である宗教も、ただ“愛”であり、争いの道具にはなり得ないと思います

《 カーマ(欲望)・マナス(精神)について 》

「カーマという言葉は、時にはその用法が限定されすぎて低劣なる、

感官の欲望だけを意味するものとされるが、本当は、一切の欲望を意味するのである。

欲望とは愛が外に向いた側面、三界(物質界、アストラル界、メンタル界)の事物に対する愛である。

本来の愛は生命に対する愛、聖なるものへの愛であり、高我すなわち内向する我に属する。」

「マナスという言葉は、梵語(サンスクリット)のマン man から来ており、

マンは「考える」という動詞の語源である。

それは我々の内なる思考者であり、西欧では漠然と心と呼ぶ、マナスは不滅の個我、真の「吾」である。

しかしこの思考者であるマナス自体は、高次のメンタル界層、もっと正確に言えば

コーザル界層に常位する靈的存在なので、低次元の世界と直接に接触することはできない。

そのため彼は、自分自身から下位のマナスを突き出す。

この下位のマナスを「映し」とか、「影」とか、「光線(レイ)」とか、いろいろな呼び方をする。

脳に働きかけ、脳の中で働くのは、この光線(レイ)である。

それは脳を通じ、その諸条件(脳の構成その他の物質的な特徴)が翻訳しうる範囲内の、
精神能力となって現れる。

この光線(レイ)は脳の神経細胞の分子を振動させて、物質界層での意識を生ぜしめる。」

“カーマ・マナス”の、“カーマ”は“欲望”と訳され、アストラル体の象徴、

“マナス”は“心(思考・精神)”で、メンタル体を象徴するものであり

このカーマとマナスが絡まり、強く結びつく事によって、物質的なものに対する強い執着が生まれ
輪廻転生サイクルからの解放が遅れてしまうとされます

進化を阻む壁のような、ネガティブな意味合いの言葉であるようですが

私は、“カーマ・マナス”から、“愛と光”?!が連想され、もう一度読み返してみると、そう見えます^^

カーマは“愛”の、マナスは“光”の、下降の進化の一形態であり、

ここでもやはり、仲良く“ペア”となっています^^

自身に起こる出来事は、本来ニュートラルであり、それ自体に、良い悪い等の意味は無いとされます

そこにどんな意味を持たせるか?(どう捉え、どう反応するか?)が、最も重要で

何かを克服しなければならない…、我慢しなければならない…と思うと

逆に、そのなりたくない方に意識を向ける事(=共鳴によってパワーを与える事)になり、

より深刻となってしまう場合が多いような気がします(経験者は語る、笑)

“カーマ・マナス”は、ベクトル(向き)の違う“愛と光”なのだから、ただ向きを変えるだけでいいのでは?

上昇進化(アセンション)のマスターキーである“愛と光”(“ハートと魂”)にフォーカスする事!

愛と光だけを選択する事!

諸々の“思い”は、“重い”であり、それらを手放せば、身も心も軽くなり、自然と上昇していきます^^

「欠点や過失をクヨクヨと思い煩うのは愚かである。

何故なら、そうすればとかく無気力、憂鬱になりやすく、それが壁となって、

高級な霊的影響力の入ってくるのを妨げるからである。

この行法を実習するに当たっては、自分の性質の欠点は出来るだけ無視し、

その反対の美德を形成することに集注するのである。

霊的生活においては、低級な性情を克服しようとして、それと烈しくたたかうよりも、

高級なる事物を学び、その真価値を深く認識するところまで、成長することによる方が、多く成功を収める。

高次元の生活の至福と歓喜とをいっぺんでも味わえば、低次元の欲望どもは色褪せ、その魅力を失ってしまう。

犯した誤ちに対する最善の悔恨は、希望に満ちた勇気と、

二度とはあやまちを繰り返さないとの、固い決心とをもって、前向きになることである」

本当の勇気とは、常に明るく前向きである事 = どんな時も自分を信頼し、大切にすることなのだと思います^^



“愛と光”は、その時フツと浮かんだ言葉で、“直観”なのでは?と感じたのですが

ちょうど、“直観”についての説明が続いていました

「真の天才とは、高位マナスの閃きが、下位意識の中に浸透した相である。

——天才は議論せず、直接に知る。その故に天才は高位マナス、すなわち高我に属する。

天才にはいくつもの働きがあるが、真の直観はその働きのひとつである。

理性は観察によって集めた事実を整理し、秤量し、比較する過程であって、

これらの事実を互いに比較し、そこから議論し、そこから結論を引き出す。

これは脳という装置を通じて行われるマナスの演習であり、その道具は推理である。」

「普通の推理と、天才と称せられる意識の特殊な閃きとの間には、ある開きがある。

推理はメンタル界層とアストラル界層との各亜層を次々と、一歩々々通過して、やっと脳にやってくる。

しかし天才は、各亜層のアトム(原子)(最高亜層)だけ、すなわちメンタル界層のアトム(最高亜)層から、それぞれアストラル界層、物質界層のアトム(最高亜)層へと一気に降り注がれる意識の結果なのである。」

「肉体脳の能力である理性は、五官の提供する証拠に全面的に依存している以上、人間の内なる聖霊に直属する能力ではありえない。後者は直接に「知っている」のである。

従って話し合いや議論などの、一切の推理は無用である。」

これまでは、「なんとなくこれが直観？」と思うだけで、どのような仕組みなのか？謎でした

何の前ぶりもなく、瞬間に浮かぶもの、という感じがしていたので

「各界層の最高亜層だけを通して、一気に肉体へと降りてくる」という説明に、すごく納得でした(^^)それが真実であると、何故かわかるような気がする理由も、本当の自分の声なのだから、当然の事なのですね

「直観を上位の意識より下位の意識に伝達する方法には、二つあることがわかる。

一つは、高位のメンタル界層より、下位のメンタル界層へと伝える方法であり、

もう一つは、ブッディ界層より直接アストラル界層に伝える方法である。」

「コーザル体の直観は、外なるものを認知する直観であるといわれており、

ブッディ体より来る直観は、内なるものを認知する直観であるといわれる。

ブッディの直観によって人は物事を内側より見、知的直観によって人は、彼自身の外側にあるものを観る。」

「魂に属する天才は、議論するのではなく、直接に見るのである。

本当の直感が、魂の機能の一つである。それは理性が下位精神の手段であることに対応する。」

直観は、理性や推理ではなく、“直接知る”という魂の機能であり、

ブッディ界よりアストラル界に降りてくるものと

コーザル界より(下位)メンタル界へと降りてくるものの、2通りがあることが解かりました

どちらの場合も、下位の体である、アストラル体、メンタル体が美しく穏やかである事が重要とされます

「考えるな、感じる！」との名言は、低我を静め、高我(真の自己)の声に、

耳を澄ますことではないでしょうか^^

《 想念波と想念形態 》

「人が自分のメンタル体を使用する時、すなわち考える時には、

メンタル体内にある波動が起き、二つの結果が生ずる。

第一には波動を生ずること。第二には想念形態を生ずることである。」

メンタル体を使用する時とは、「何かを考える事」であり、その際メンタル体には波動が起きます

その波動によって直接生ずる結果と、さらに想念形態へと発展していくものとの二種があるとされます。

1. 想念波によって直接生ずる結果について

「メンタル体内に生じた波動は、他のあらゆる波動と同じように、周りの質料のうち、

同波動に感応しうるすべての質料に伝わる。——

メンタル衝動の場合、その放射は太陽やランプの放射のように、

一界層だけにとどまらず、他の多くの次元におよぶ。

放出された放射線(波動)は、ちょうど物質界層における光線のように、

些かも干渉し合うことなく、あらゆる方向に放射する。その上拡がりゆく放射線は多彩で、かつ乳白色光を発する。

ただしその色彩は拡がりゆくにつれて、次第に薄くなってはゆく。」

「すでに述べたように、メンタル波動は、機会さえあれば再現する傾向があるので、想念波が他のメンタル体にぶつかると、その中に同じ波動を起こさせる傾向がある。

ということは、ある人のメンタル体にある想念波がぶつかると、その人の心の中に、この想念波を起こした人と、同じ想念をおこす傾向があるということである。」

「善き想念が同様にして、他に善い影響を与えることはいうまでもない。

従ってこの事をよく理解している人は、絶えず自分の友人や隣人に、愛や静謐や平安などの思いを放射して、事実上、太陽と同様の働きをすることができるのである。

もしその方を撰びさえするなら、人は想念の力によって善事のための力を、どれだけ発揮しうるものであることか、この大事を知る人の極めて少ないのは残念である。」

「いつも純粋な、善いことを、しかも強く思うのが習慣となっている人は、自分のメンタル体の、高い部分を活用していることである。

この部分は普通の人は全く使用せず、従って全く発達していない。

故にそのような人は、人生において善を推進する力となり、

何らかの反応をなしうる隣人たちにとっては、まことに有益な人物である。

なぜなら、彼が発出する波動は、隣人たちのメンタル体の新しい、高級な部分を目覚めさせ、その結果新しい思想の世界、新しい物の考え方を展開させてくれるからである。」

「ここで注意をしなければならないのは、想念波は

その想念をそのまま伝えるのではなく、むしろ同じ性格の想念を伝える方が多いということである。

たとえばその想念が信心や献身の念であれば、その波動は同じ信心や献身の念を起こさせる。

ただし礼拝の対象は、各人によって違うことはありうる。

これでもわかるように、想念波すなわち想念波動は、想念の性格を伝えるのであって、対象を伝えるのではない。

もしヒンドゥー教徒が、グリシュナへの深い敬虔の思いに浸って静座していると、彼から発する想念波は、その影響を受け、全ての人々に同様に、敬虔の念を感奮させる。

ただしこの場合、回教徒であれば、その敬虔の対象はアラー、

ゾロアスター教徒であればアフラムツダ、クリスチャンであればイエスとなる。」

2. 想念形態について

想念形態とは、考えることによって生じた波動が、メンタル界に存在するメンタル・エレメンタル・エッセンス(髄質)と結びつく事によって生まれる、想念の一形態とされます。メンタル・エレメンタル・エッセンス(髄質)は、「太陽系ロゴスの三様」の中にあつた、物質界へと下降していく、第二ロゴスの生命の、メンタル界層における相(姿)です。

「想念はメンタル体内質料に、一連の波動をひきおこす。

するとその衝撃によって、メンタル体はその波動を起こしている部分、

しかも波動の性質によって様々の形をとる部分を、放出する。

その形の取り方は、細かい粒子をバラ撒いた円盤を、音楽に合わせて振動させると、

粒子が特定の形を取るのに似ている。

このようにして放出されたメンタル質料は、周囲の気圏から

メンタル界の適当なタイプのエレメンタル髄質(すなわち第二エレメンタル王国のエレメンタル髄質)を集め、

それを、その固有の波動率に合わせて、波動をおこさせる。

こうして出来上がったのが、純粹かつ単純な想念形態である。

このエレメンタル想念形態は、アストラル形態すなわち感情形態に似てはるが、それよりも遥かに光り輝き、はるかに色彩も明るく、より強くて永続し、活力もさらに富む。」

「想念形態は、それを発生させたただ一つの思いによって烈しく働くところの、一時的ではあるが生ける存在である。

精妙な質料より成る場合、それは強大なる力とエネルギーとを持ち、

強烈な、一貫した意志でもってそれを動かせば、非常に強力な道具となる。

—— これらの想念形態をエレメンタル、時には人工エレメンタル(念霊)というのである。」

世界のすべてが波動(エネルギー)で出来ていて、

物質界よりも、アストラル界、メンタル界へと上がっていくほど

波動は高く繊細となり、そのパワーもより強力なものとなっていきと言われます

多くの人が私と同じように、これまでエネルギー体の存在を知らずに、生きてきたのではないのでしょうか？

そして、どこかで、アストラル界やメンタル界の事を知ったとしても、右から左で

この物質界(地上社会)に生きる上で培われてきた

「目に見えるものが一番確かで、価値あるもの」との思いは、変わらないかもしれませんが

けれど私は、メンタル体(神智学)を学んでいくうちに、自身の考えが、大逆転を起こしていることに気が付きました

現実社会のすべては、人の願望、思い(感情、思考)からはじまっているはずで

一人一人から生まれる様々な思いが、アストラル界やメンタル界で、他の人のそれとぶつかり、

複雑に影響しあい、その結果(差し引き)として生まれた波動(エネルギー)が、

良きも悪しきも凝縮され、目に見える物質となって現れている

また、明確な形へと移行する前の、流行や社会現象と呼ばれる一つの傾向(想念形態)となって

現われているのが、この地上物質界ではないのでしょうか？

この物質界こそが、アストラル界やメンタル界で起こっている事の、単なる結果でしかないという真実です

誰もが無頓着・無意識に放出している、思いの集合が“集合意識”と呼ばれるもので

“集合意識”が、この地上世界を形作り、動かしているのだから、

気付いた人から、自己の意識に責任を持つことで、素晴らしい未来を築いていく事も可能はずで

そのためには、一体どれ程の時間と人員が必要なのか？と考えた時

1(人)+1(人)=2、3、4(人)。。。ではなく、1(人)+1(人)=100、1000、1000(人)。。。となっていく

エネルギー(光)の∞の可能性を示す、「100匹目の猿現象」という言葉が浮かび

あらためてこの現象について、ウィキペディアで調べてみました

「百匹目の猿現象とは、生物学の現象と称して生物学者のライアル・ワトソンが創作した架空の物語である。」

とあり、ガクッ！

宮崎県串間市の幸島に棲息するニホンザルの一頭がイモを洗って食べる事を覚え、

同行動を取る猿の数が閾値(ワトソンは仮に 100 匹としている)を超えたとき、その行動が群れ全体に広がり、さらに場所を隔てた大分県高崎山の猿の群れでも、突然この行動が見られるようになったという筋書きであり、

このように、「ある行動、考えなどが、ある一定数を超えると、これが接触のない同類の仲間にも伝播する」

という超常現象の実例とされていた。

結局のところ、これは創作であり、真実ではない、という事のように

これがまさに現代社会であり、エネルギー体の存在が一般に浸透しない、理由の一つのような気がします

エネルギーは時空の制限を超えるので、このような現象はあり得るのだと思います

すべてが完璧でないとしても、「火のない所に煙は立たぬ」で、
五感を超えた、見えない世界の真実(真の科学)が、顔をのぞかせているのではないのでしょうか？

波動(意識)は共鳴であり、ないと思えば、どんな可能性も生まれません

「架空」、「超常現象」等の言葉によって、そこにフォーカスすることを封じてしまう、とても残念な
社会の仕組みのようなものを感じます

一方で、科学的に証明されていない事柄を、無責任に放出することは、とても危険でもあります
人や社会に流されることなく、自己の意志で選択し、進む事が、最も重要と思います
沢山の情報やエネルギーの中から、何を選択すればいいか？わからない時、思い出す言葉があります

皆さんは今回、重要な使命を持ったアセンション・ライトワーカーとして、

地球のアセンションをサポートするために、宇宙からやってきました。

しかし皆さんの多くが、この地球の物理次元に入るための条件のひとつである

「記憶喪失」のままとなっています。

本来、宇宙で学んできたはずの数々の内容や用語も、覚えていない人が多いと思います。

ですから、内なる光、内なる愛の感覚だけが、そのガイドとなります！

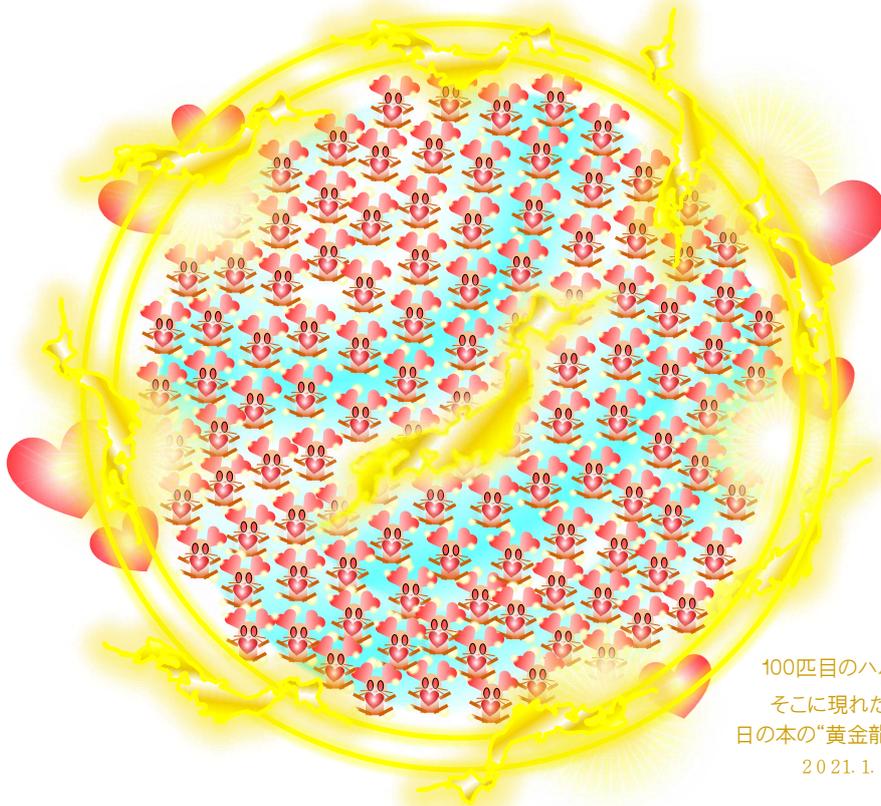
(『天の岩戸開き』——スーパーアセンションへのご招待より——)

何よりも、そこに愛と希望(光)を感じるか？が、私にとってのすべてであり、“創造”の意義です
内なる愛と光=自己の“ハートと魂”に響くもの、心地良いと感じるものを選択すればよいのだと思います^^

私は、「100匹目の猿(ハム?)現象」に、ワクワクします！

自己の意識を、常に愛と光に向け、同じ思いを持つ方々と∞のシナジーを巻き起こし、

“愛と光の新地球”を創生します\(^o^)/



100匹目のハム！^^

そこに現れたのは
日本の“黄金龍体”？！

2021. 1. 11

「発達した人と発達していない人との違いは、前者は思考する力を意識的に用いるが、
後者はそうではない、ことである。

前者のような人が想念形態を造り、かつその想念形態を意識的に働かすならば、

彼の世に資する力は、いよいよ大となるであろう。

なぜならば彼は、その時点ではまだメンタル体で訪れることはできない場所に、
自分の想念形態を差し向けて、お役に立つことができるからである。

こうして彼は自分の想念形態を看視し、指揮して自分の意志の代行者にすることができる。」
「第一に必要なのは、あらゆる事物について曇りのない、澄み切った、偏見のない見方をするのであり、
その事物の真相を見て、他人の見解などには従わないことである。」

「想念形態は相手のオーラの中に、その波動に共感しうる質料がある時だけ、
相手に影響を与えることができるのは、見易い道理である。
想念形態の波動が、相手のオーラが感応して振動しうる範囲を超えている場合は、
その想念形態は跳ね返ってくる。

跳ね返る力は、相手のオーラにぶつかった時のエネルギーに比例する。
純粋な心と情(ハート)とは、敵意のある攻撃に対する、最良の防御であると言われる理由も、
またここに存する。なぜならば純粋な心と情(ハート)は、
メンタル体とアストラル体とを、美妙にかつ巧緻なる質料で造り、
こうして造られた体は、粗雑、濃密な質料を必要とする波動には、反応しえないからである。
万一悪意を持った邪な想念が、そのような純化した体を打つならば、
それは直ちに跳ね返り、最小抵抗路線に沿って飛んで返り、それを送った人(甲)を打撃する。
すると、甲にはもともと彼自身が発生させた、悪意の想念の質料によく似た質料を、
メンタル体とアストラル体とにもっているのであるから、
それらが跳ね返ってきた想念に反応して波動を起こし、甲はその波動の中にいわば投げ込まれ、
相手をやっつける積もりでおったのが、逆に自分がやっつけられることになる。」

よく「ネガティブな態度や言葉に出会ったとしても、こちらが反応しなければ、そのまま相手に返っていく」
と言われますが、その理由がとても明確になりました

これは消極的防御法ですが、アカデミーでは「発現こそ最大の防御！」とされ、

日常のあらゆる場面において、自身から愛のエネルギーを発現し続ける実践をしています^^

それは最大の防御であると同時に、愛のエネルギーを共鳴・拡大していく、素晴らしい先制攻撃?となります
また愛のエネルギーを発現することは、自身が愛そのものとなっているという事であり、大きな喜びでもあります
愛は神であり、宇宙最大のエネルギーである事は、実践によって日々体感されていくのだと思います(***)

「破壊的タイプの想念形態は、破壊エネルギーの作用を及ぼし、
物質界層に大破壊をもたらす場合がよくあるのである。

様々の「事故」、地震、嵐、竜巻、暴風雨、洪水などの天変地異は、この想念形態が原因となっている場合が多い。
それだけでなく、さらにまた、戦争、革命、あらゆる種類の社会騒乱をひき起こし、
疾病、犯罪、周期的におきる事故などもまた同様である。

怒りの想念が、殺人の犯行を助けていたこともある。

このようにして人間の悪しき想念は、あらゆる方向に、あらゆる方法で破壊をもたらし、
自分自身の上にも他人にも、相互作用をおよぼし合っているのである。」

「子供に及ぼす想念の効果は、特に著しいものがある。

子供は肉体だけでなく、そのアストラル体もメンタル体も、可逆的で成形しやすい。
子供のメンタル体は、ちょうど海綿が水を吸い込むように、他人の想念を飲み込むのである。
年が幼過ぎるため、飲み込んだものを、そのまま再現することはできないが、

いったん植え込まれた種子(想念)は、適切な時季になると果実を結ぶのである。
故に、子供の周囲を高尚な、非利己的な雰囲気ですくむことは、非常に重要なことである。

あんなに美しい、純白だった子供の魂とオーラとが、
周りの大人たちの利己的、不純、低俗な想念のために汚れ、墮落し、暗黒となるのを見るのは、
霊眼者にとっては恐ろしい光景である。

子供達の性格は、大人たちの性格さえよければ、どんなに素晴らしく、
どんなに速やかに善くなるかは、霊眼者だけが知っている。」

自然災害は、私達の力ではどうすることも出来ないものであるような気がしますが、
実は私達の想念によって生まれている事が理解できれば、
再発防止につなげていく事ができると思います

また、子供たちの明るい未来は、私達大人が変わることによってのみ、開かれていくのだと思います
奇蹟は奇蹟ではなく、起こるべくして起こる事であり

一人一人の意識の在り方と、その結集によって、今の私達に出来る事は、たくさんあるような気がします！

「歴史や戯曲、小説などに出てくる人物の想念形態は、大なり小なり永続する。

たとえば、シェイクスピアの劇や、バニヤンの「天路歷程」からは、
すでにいろいろな人物や場面が描きだされており、
お伽噺からはシンデレラ、アラディンのランプなどといったものが、想念形態として造り出されている。
それらは無数の人々の、想像の産物が集合したものである。

子供達は特に生き生きとした、すぐれた想像力を持っているので、彼らの読む本は想念形態の世界によく現れてくる。

たとえばシャーロック・ホームズ、キャプテン・ケトル、ニコラ博士、その他多くの人物が、
まるで実物のように、見事な姿で存在している。」

ドラえもんやアンパンマン、セーラーMoonなどが浮かびますが、

日本のアニメは、世界中で大人気との事！

強力な想念形態となって存在し、多くの人に、愛と勇気と感動を与えてくれているのだと思います

〇〇んっ？ 何やら視線が？ 〇〇

アニメ？と言えば。。。“ハム”！！ ハムは根源太陽母神のハートのカケラ！

根源の究極の愛の子供に、不可能はありません！

“ハムワンダーランド地球”は、“愛の奇跡の星地球”！ ハムは、私達の最強の応援団です！^^



SUN SUN ナナビョーシ！ ソレ！

サン*サン*サン* サン*サン*サン* サン*サン*サン*サン*サン*サン*サン*

サン*サン*サン* サン*サン*サン* サン*サン*サン*サン*サン*サン*サン*

サン*サン*サン* サン*サン*サン* サン*サン*サン*サン*サン*サン*サン*

いつもありがとう(*^^*)

「メンタル体意識が発達すると、自分の過去世より今生にかけての、生活と記憶とは、
切れ目なく一貫して連続するようになる。

このように、意識的にメンタル体内で機能することができるようになり、メンタル体の力も限界を体験するようになると、彼は自分の使っている器(体)と自分自身とが全く別のものであることを、必ず学びとるようになり、次の段階へと進む。それはメンタル体という「我」は、個「我」であり、つまるところは幻影であり、コーザル体の中に住する真人、すなわち高我こそが「我」であることを知る段階である。意識がより高い次元の、メンタル界層にある高我(魂)のレベルまで昇ると、彼の過去世一切の記憶がよみがえることは、前述のとおりである。」

過去生が全く蘇らない私は、地上にまだやり残している事が一杯?(笑)^^

≡二情報 ○旅行について○

「海や山、森や滝などと繋がっている、不可視の存在(自然霊)は、人間のメンタル体、アストラル体、エーテル体のうちの使い馴れていない部分を、目覚めさせる波動を放射する。従って旅行は、この三体にとっては有益である。」

何かに行き詰まった時は、旅に出ると良いのでは?新しい可能性が生まれそうですね!

○祈りについて○

「神の生命と光とは、その全域に充ち満ちているが、各界、各層の力は、普通は同界層だけに厳しく限定されている。しかし、その力に対するある特殊の通路(チャンネル)が造られると、その力は下級の界層に降り、同界層を光明化することができるのである。思考、想念や感性が完全に無我であれば、常にそのような通路が開ける。利己的感情は内側への曲線となって働くので、その答えは同感情を発した者のいるレベルに跳ね返ってくる。しかし全ての無私の感情は、エネルギーの奔流となって戻ることなく上昇し、一段上のレベルから、聖なる力の降臨の通路となる。これが祈りに対する答え——事実である。」

人の意志は尊重されていて、宇宙高次が無条件で、私達の生活に干渉することはないと言われますけれど、「願えよ、さらば与えられん」、高次は私達からの呼びかけを待っているのだそうです。無私の祈りは強いエネルギーとなって上昇していき、上のレベルから聖なる(高次の)力が降りる通路を開き、利己的感情は内側への曲線を描き、本人の元へと跳ね返ってくる?!

宇宙の法則とは、なんとも天晴あっぱれです^^

《 天国(デヴァチャン)の原則 》

「アストラル体をアストラル界に脱ぎ棄て、意識がメンタル体に移る、すなわちメンタル界層に「上がる」瞬間以後の、研究をすすめることにする。この段階を神智学(セオソフィー)ではデヴァチャンといい、輝く土地を意味する。」

「古書には、デヴァチャンとは、メンタル界層の特別に守護された部分で、そこでは、人類の進化を管理している偉大なる霊的大師方によって、一切の悲哀と邪悪とが取り除かれている、と記述されている。したがってそこは、人間の地上生活が果実化する、至福の安息所であるという。」

「第二回目の(すなわちアストラル界での)死より目覚めると、まず真っ先に感ずるのは、

形容もできぬほどの至福と活力であり、生きていることの全き喜びである。

それはただ生きるということ以外には、当面何も望むことはないというていのものである。

このような至福こそが太陽系宇宙における、あらゆる高次元世界における、生活の真髄のひとつである。

アストラル生活でさえ、地上生活のどんな喜びよりも、遥かに幸福なものになるが、

天界デヴァチャンの生活の至福は、アストラル界層のそれとは比較にならぬ程である。

このような体験は、各次元の世界ごとにくりかえされ、現在の界層の祥福は、その前の祥福にいやまさる。

これは至福感だけではなく、英智と視野の広さにおいてもまた同様である。」

「天界で目覚めた時に受けるこの至福を、適切に表現しうる人は恐らくいないであろう。

この甚深なる至福が天界の主な特徴である。

それはただし、単に邪悪や悲哀が有りえないというだけでなく、

またあらゆる生き物が幸せであるというだけでもなく、それはあらゆる人々が、

その人なりの最高の靈的至福を享受する世界であり、自分の願望に応える力を限るものがあるとすれば、

ただ自分の願望する能力だけである、という世界である。」

「人は過去における努力の積み重ねによって造り上げた、器量に応じた分だけしか

天界からは引き出すことはできず、また、それに応ずる部分だけしか認知することはできない。

東洋のたとえにもあるように、めいめいが自分用の椀をもっており、ある物は大きく、ある物は小さい、

しかし大は大なり、小は小なりに、ギリギリまで満たされる。

至福の海はあらゆる者に余って欠けることがない。」

“天国”とは、人の願望が生み出した、架空の世界のようなイメージがありますが

上記にあるように、そこは形容もできないほどの至福と、活力に満ちた

「太陽系宇宙における、あらゆる高次元世界における生活の、真髄のひとつ」なのでした

私達は、“輪廻転生”という、進化の為のシステムの中で、何度も経験してきているようです^^

輪廻転生の全体像は、山登りのようでもあり、それぞれが目標とし、頑張って登った山頂(天国)には、

決して地上では目にする事の出来ない、壮大な美しい景色が広がっていて、

大きな喜びと、達成感を得る事ができるのだと思います

またそこでゆっくりと休息することによって、身も心もリフレッシュされ、

新たな展望が広がっていくのではないのでしょうか？

私が今回、ハッとしたのは

至福とは、与えられるものではなく、願望する能力、個々の力量であるとされている点です

そのためには、それらと共鳴する波動を、過去生の積み重ねによって、自身の内に育ててきていること、

∞の至福=愛と光に向かって、どこまでも進もう！という明確な意志が、必要なのだと思います

その意味で、地上で「生きる」とは、

どう無難に過ごすか？ではなく、チャレンジする事なのではないのでしょうか？

美を知るためには醜を、善を知るためには悪を知らなければならず、振り幅(陰陽・二極性)が必要で、

その体験と学びの場が、天国も地獄もある、この地上物質界であるのだと思います

そして、輪廻転生システム全体からみて重要な事は

誰もがその道を通して進化していくので、先を行く人が、後からくる人を支え、

共に前進しようと、手を差し伸べる事、心を尽くすこと

そうでなければ、この経験の場“地球”は、一瞬で地獄と化し、崩壊してしまう可能性があります

このような共存共栄の営みは、ここにある、あらゆる全て(全宇宙)にとっての、進化へとつながっていて

その最強の力を、“愛”と呼ぶのではないでしょうか！

「デヴァチャンすなわち天界では、終えたばかりの地上の一生で、
「内なる思考者」が経てきた、数々の体験のうち、
価値ある道徳的体験や、精神的体験だけを選びだし、それについて沈黙し、
次第にそれを道徳的、精神的な能力として昇華せしめ、次の生に持ち越すべき何らかの力とする。」
「過去世において数々の慈善の計画を持ちながら、それを遂行する力と腕とに欠けていたが、
デヴァチャンではその計画について熟考し、一段一段とねり上げ、
かくてその成就に必要な力と技能とが発達して、来世の地上において駆使されるべき精神能力となる。」

死後の理想郷、天国は、昇るためにあったのではなく、
今この地上で生きる為に準備された、神の愛(力)に満ちた領域であり
私達が「神も仏もない」と思う時、神も仏も笑っているのかもしれない^^

常に真の自己＝“魂”は、宇宙の真髄、至福(天国)の中にあり、
人生でどのような事が起きたとしても、一つのゲームのようなもので、一人ひとりが、その主人公！
昔好きでよく見ていたドラマの主題曲にあったフレーズ、「運が悪けりゃ、死ぬだけさ〜」(笑)が、浮かんでいきます
(ドラマのタイトルは、なんと「俺たちは天使だ！」でした?! 深刻を吹き飛ばす、天界の軽やかな波動を感じていたのかも?!^^)

「メンタル界層は、我々が生まれ変わる間だけ過ごす所ではなく、
現に今の今も生きている、広大かつ美麗なる、生き生きとした生命の世界であることを、
理解するように務めなければならない。
最高天の栄光はことごとく今、ここに我々の周りに実在しており、
もし我々がその事実を知って、それを受けさえすれば、
その世界より絶えず流れている力が、常に我々に働きかけてくれるのにかかわらず、
我々がそれを十分には理解しえないのは、我々の未発達と、肉体による制約のためである。」
「言い換えればデヴァチャンとは、意識の状態であって、
五官より魂を徹収することを学んだ人であれば、いつでも入れる境地である。」

《 低我と魂(高我) 》

人間の構成要素(神智学ではこれを素因[プリンシプル]という)は7つあり、2つに大別されています
不滅の三複合体(トライアド、高我)＝アートマー(霊的意志)、ブッディ(英智、直観)、マナス(思考する心)と
やがては消滅する四複合(低我)＝カーマ(欲望)、プラーナ(活力)、エーテル複体、調密体(肉体)です

「魂の目的は、その潜在諸能力を展開することであり、
次々と生滅を繰り返す低我の中に入る事によって、この目的を遂げるのである。
この事を人類の大部分は知らず、低我を真我と思ひ違い、低我のためにだけ生き、
低我のみかけ上の一時の利得だけに、その生活を合わせてゆく。」
「しかし本当に解っている人は、魂の生活こそが唯一の重大事であり、
魂の進歩こそが、この仮の低我を使役する目的であることを知っている。
故にそのような人が二つの行為のうち、いずれを為すべきかを定める時は、大方の人々がするように、
どちらの行為が低我としての彼に、より大きな快樂または利得をもたらすかを考えるのではなく、
どちらが魂としての彼に、より大きな進歩をもたらすかを考える。
実際に体験した結果、間もなく彼は、全体のためにならないことは、彼自身のためにも、

その外どんな人にとっても、ためになるものでは決してないことを知る。
こうして彼は全く己を忘れて、人類全体にとって最善のものだけを考えるようになる。」

「低我の中に悪の品性があるとすれば、それは魂すなわち高我の中に、
それに対応する善の品性が、欠けていることを暗に意味する。

魂は不完全ではありえても、邪悪ではありえない。

また普通の状態ではいかなる種類の悪も、コーザル体によって表現されることはありえない。

その理由は、前に説明した通りである。すなわち、

不良な品性は、アストラル質料のうちの、低い四亜層の質料の中にしか現れず、
それはまた、メンタル界層の低位の四(第四、五、六、七)亜層の質料に、反映するだけである。

したがって魂(高我)には、全く影響を与えることはできない。」

不良な品性は、アストラル界とメンタル界の下位四界層の間に起こり、反映するだけで
魂の存在するメンタル界の高位三界層(コーザル界)には、なんの影響も及ぼさないという、
まるで、地上における、厳格なセキュリティシステムのような宇宙の法則に、改めて感動すると同時に、
過去の出来事が思い出されました

自分の事が最悪・最低と感じられ、私はもうダメ。。。、失意のどん底に陥ってしまったとき
「そうではない」という、その時の自身の気持ちとは、全く正反対の思いが、内から湧き上がってきました

何が、どう、そうではないのか？具体的な事は何もわかりませんが、

ただ、静かな響きの中に不思議な力を感じて、ネガティブ思考はストップしました

今思えば、それがコーザル体の主“魂(ハイアーセルフ)の声”？だったのかもしれませんが

「魂は決して邪悪ではありえない」——

人の一時の感情や言動によって左右される程、“魂”(神の分御魂)は、小さなものではないのです

人は、決して悪(というものがあるならば)にはなれない！のだと思います

気付いた時に、意識のベクトルをポジティブへと反転させる、切り替えの早さと、

勇気が大切なのだと思います

深く沈んだ時ほど、その反動で、飛び上がる力も、強く、大きく、進化している気がします！^^

「どのような祈りにせよ、その真の対象はブッディ、

アートマーと結びついた、高位マナス(三体)なのであり、

時代や民族によって異なる名称というべきベールで、覆われただけである。

それはすべての宗教でいう理想人間、「個々の神」「神人」である。」

全ての祈り(宗教)の対象は、“〇〇の神”という、自身の外側にある、祭り上げられた幻影ではなく

ブッディ、アートマーと結びついた高位マナス(三体) = “自分自神”であり、

地上に立つ、理想人間、“真人” = 「神人」です

その第一目標として、下位メンタル体から高位メンタル体(コーザル体)への意識の進化があり

真の自己である“魂”(神の分御魂、最初のハイアーセルフ)と一体化し、

自己の現実の創造主となる必要があるのだと思います

下位メンタル体以下は、高位メンタル体以上では決して成し得ない、とても高度な進化の場でもあり

宇宙史上初の、地上から根源へのアセンション！の、重要な舞台(足場)のように感じられます

惑星地球は、今この時を待ち望んでいたのではないでしょう

魂(神)の願いを、地球という、最も波動の粗いこの物質世界に、明確な形として顕現することが出来るのが、

この地上に生きて在る“神”の如き“人” = “神人”であるのだと思います

『ハムのワクワク神智学(1)』のはじめに述べましたが、
新宇宙(NMC)が誕生した時、全宇宙高次からの要請によって
その核心は日本の天照神界で、“根源天照皇太神”となりました！(『天の岩戸開きより』)
私はこの事を知ったとき、信じられないという気持ちと、やっぱり…という、両方がありました
そしてアカデミーに入会し、アセンションについて学んでいくうちに、
根源神界につながる日本に住む私達は、世界に先駆けて神人となり、
NMC創生のトップ&コアとなっていく使命と力を持つことを、確信しました！
神人は、根源(神界)と、そこから生まれた全宇宙高次(天界、スピリチュアル・ハイラーキーや大天使等)、
それら全ての力を地球に統合することが出来る、唯一の器であり、最強の光の戦士です！

「下位精神界層と上位精神界層との間には、根本的な違いがある。
前者では質料が支配的で、一番先に目につくのが質料である。
そのために意識は、形態に妨げられて、なかなか表面には出にくい。
ところが高位精神界になると、生命が主役で、形態は生命の目的のために存在するにすぎない。
下位精神界層で難しいのは、形態の中に生命を表現することであるが、
高位精神層ではこれとは全く逆に、生命の流れに形を与えることが難しい問題である。
意識という光が、何の制約も受けずに、それ自体の力で輝くのは、上位精神界層に限るのである。」

メンタル界からコーザル界を見上げるのではなく
コーザル体(魂)の力をメンタル界、アストラル界、物質地球へと降ろすことの出来る“神人”となるために
魂の住み家とされる、コーザル体の学びへと進んで行きたいと思います(^^)!

◇コーザル体

「エーテル体、アストラル体、メンタル体は、人間の一生かぎりであり、
したがってそれは、いずれは死滅しなければならないが、
コーザル体は幾多の輪廻転生を繰り返しつつも、人間の全進化を通じて持久するものであり、
したがって比較的に不滅だからである。

ここに「比較的に不滅である」というのは理由あってのことであって——
人間は全く通常の間人としての進化を終わると、超人間としての進化を開始し、
ここに至って始めて過去世を通じて生き続け、
同時に進化の媒体でもあった因体(コーザル体)が、現実に消滅するからである。」

コーザル体の消滅によってようやく、輪廻転生のサイクルは卒業です
真の人はここからが本番?! 進化の道程は根源へと向かって、まだまだ続いているのです!

《 進化の場 》

「我々の太陽系における進化の場は、七つの界層より成り、
次の三つのグループを形成していると考えることができる。
すなわち、①ロゴス(司神)だけの顕現の場、
②通常を超えた進化の場、③通常の間人、動物、植物、鉱物およびエレメンタルの進化の場である。」

「太陽系の7界層」の図の右側に、「進化の場」を追記しました^^

《 進 化 の 場 》

		名 称		進化の場
(太陽系の七界層)	(四つの媒体)	サンスクリット	日本語	
1	アーディ (ロゴス)		アーディ	① 司神の活動の場
2	アヌパーダカ (モナド)		アヌ・パーダカ	
3	アートマー (ニルヴァーナ、涅槃)		アートマー	② 超人、人間の進化の場
4	ブッディ		ブッディ	
5	高位メンタル 下位メンタル	コーザル体 メンタル体	マナス	③ 通常の間人、動物、 植物、鉱物、エレメンタル の進化の場
6	アストラル	アストラル体	カーマー	
7	物質	エーテル体 物質体	ストウーラ	

① 司神(ロゴス)の活動(進化)の場

「アーディおよび、アヌパーダカ界層は、太陽系が出来る前から存在していたと考えてよい。
アーディ界層は太陽司神がその太陽系を創造するための、とっておきの空間であり、
それはその太陽系の物質的(といってもいわゆる物質と不可視の質料とを含む)基盤となる
質料より成るものと想像してよい

アヌパーダカ界層は同じ質料より成ってはいるが、
それは太陽司神固有の生命、一切に入魂する意識によって修飾され、
いわば色付けられており、そのために他の太陽系のアヌパーダカ界層とはいくらか違っている。」

上から、アーディ界、アヌパーダカ界の2界層は、司神(ロゴス)の活動(進化)の場とされ
(『神智学大要4. コーザル体』4には、創造の過程が、具体的に記されています)

「きたるべき宇宙において、進化のコースを歩むことになっている無数の個意識は、
その進化の場が形成される前に、すでに神の生命の中において生じているのである。――
このようにして、意志の行為によって一の中に多が生ずる。

ここにいう意志の行為は第一司神、分割されることなき主、父なる神、の意志行為である。」

「無数の個意識」とは“モナド”の事で、太陽系ロゴス(三位一体神)の主神格である

第一ロゴスの意志によって生みだされた、その子なる神(生命)であり、

神の無数の分霊、私達人のはじまりです

宇宙とは、個々の意識(神の分身、モナド)が、質料の中を進化してゆくために造られた場であった――

ここに、「自分はなぜ生きているのだろう？なぜ世界(宇宙)は存在するのだろう？」という、

私にとっての大きな問いの答えがあり、そしてもう一つの疑問、「神とは？」について、

「私達人類にとって、とても身近な、“親のような存在”なのでは？」という、

自身の個人的感覚(エネルギー?)でしかなかったものが、システムとして見えてきた喜びを感じます^^

「モナドの生命はかくして、第一ロゴスの生命であるから、それは父なる神の子といってもよい。

同様に第二ロゴスもまた、父なる神の子である。

しかしモナドは年下の息子であって、せっかくのその神力も、その本拠であるアヌパーダカ界層の質料よりも、

濃密な質料(すなわちアヌパーダカ界層以下の界層)の中では、発揮することができない。

ところが第二ロゴスになると、幾劫にもわたって進歩の過程をへてきただけに、

いつでもその神力を行使することができる。そのために「多くの同胞の長子」といわれる。

彼らの生命・生活の根は、アーディ界層にあるのだが、モナドたち自身はアヌパーダカ界層に住んでいる。

しかし自己表現の媒体として体はまだ無く、「神の子らの顕現」の日の到来を待っている。

彼らはそのままの状態、アヌパーダカ界層にとどまる。

一方、第三ロゴスは、外界に顕現する仕事を始め、客観宇宙の質料を形成する。」

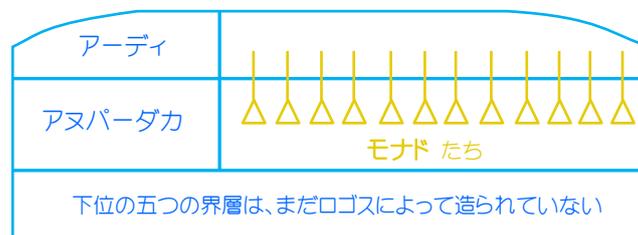
下記は、「モナドたちの発出(誕生)」とされる、とてもシンプルな図ですが、何故か目が釘付けに？(笑)

すべてが一つであったアーディ界から、微かな個性が生まれ(アヌパーダカ界)、

やがて何ものかになろうと待機しているモナド達の、ワクワクが伝わってくるからかもしれません

お母さんと、そこから生まれた、可愛い、愛と光の子供達のような。。。？

【モナドたちの発出の図】



第二、第三ロゴスの働きについての概要は、「太陽系ロゴスの三様」の中で触れましたが

第二ロゴスが「長子」、モナドが「年下の息子」と表現されていて、

ここにも、家族の様なロゴス界がイメージされます^^

私はこれまで、宇宙は大きくわけて、神界、天界、人間界の3つの部分からなる事を感じていましたが、

それが、ここに記されている、3つの「進化の場」にあてはまるような気がします

①神界とは、神々の創造の世界で、

②天界は、一般にマスターや天使等と呼ばれる、肉体を持たない高次の世界、

③人間界は、この地上であり、人や動・植・鉱物等の住む世界です

天界は神界によって創造された世界で、神界をサポートする縦横のネットワークであり、

また人の進化を助け、神と人をつなぐ仲介役とされます

天界と人との関係は、先生(マスター)と生徒(弟子)と、先輩と後輩など、縦のつながりが中心ですが、

神界と人とは、親と子、家族の関係であるといわれます

私達“人”の中心には“魂”が存在し、それは神の“分御魂(わけみたま)”とされます

スケールが違うだけで、神の分身(分神)であり、神そのものです

ここで“霊”(スピリット)と“魂”の違いについて、自身の感じている事をまとめてみたいと思います

神智学において表現されている“魂”は、神の分霊とされる“モナド”の器で、神の“分御霊”のような感じであり

日本神界で言うところの“魂”＝“分御魂”とは、ちょっと違う気がします

“魂”は光(神)そのもの(全てが統合された球体の光)ですが、“霊”とは光の分光である光線(レイ=霊)の事で

“魂”は神とダイレクトにつながるもの＝神界で、“霊”は神と人をつなぐもの＝天界のような感じです

「父と子と聖霊」という言葉を借りると、父＝神(親、神界)であり、子＝人(神人、魂、人間界)で、

聖霊＝聖なる霊(光線の働き、神と人を結ぶもの、天界)のような感じがします

神界は、マル(円)の中心にテン(点)がある、“マルテン”の形象で表されるといいます

天界は、マルの中に十字(縦横軸)で、“マルジュウ”です
 それらを統合したものが、「マルテンジュウ」で、“神人”の象徴とされます



神界は、神の創造の世界であり、テン(中心、神)とマル(宇宙、神の創造した世界の全て)で表され

天界は、神によって創造された世界(マル)の中にある、縦横のネットワーク(ジュウ)で表し、

一般的に、天使やマスター(スピリチュアル・ハイラーキー)等と呼ばれる存在の場です

その二つが合体したものが、マルテンジュウ=“神人”であり、地上セルフに神界と天界を統合したものです

人の、永遠の進化のための(根源への回帰、究極の至福)、道標としてあるのが、

「神智学」であり、日本の「神道」なのだと思います

「神智学」は、主に、光線(霊、天界)の働き=“システム”を中心とした(真の魂が明確にされていない?)

論理的で、わかりやすい“アセンション・マニュアル”という感じですが

「神道」は、光そのもの(魂、神界)であり、“エネルギー”が中心なので、感覚的でわかりづらいのかもしれませんが

“神界”と“天界”は、“円”と“ピラミッド”としても表現されます

天界(霊)は、次元という階段をトップ(目的地)まで、一段一段上っていくピラミッド(縦軸)型で

その頂上となるのは、神界の中心です

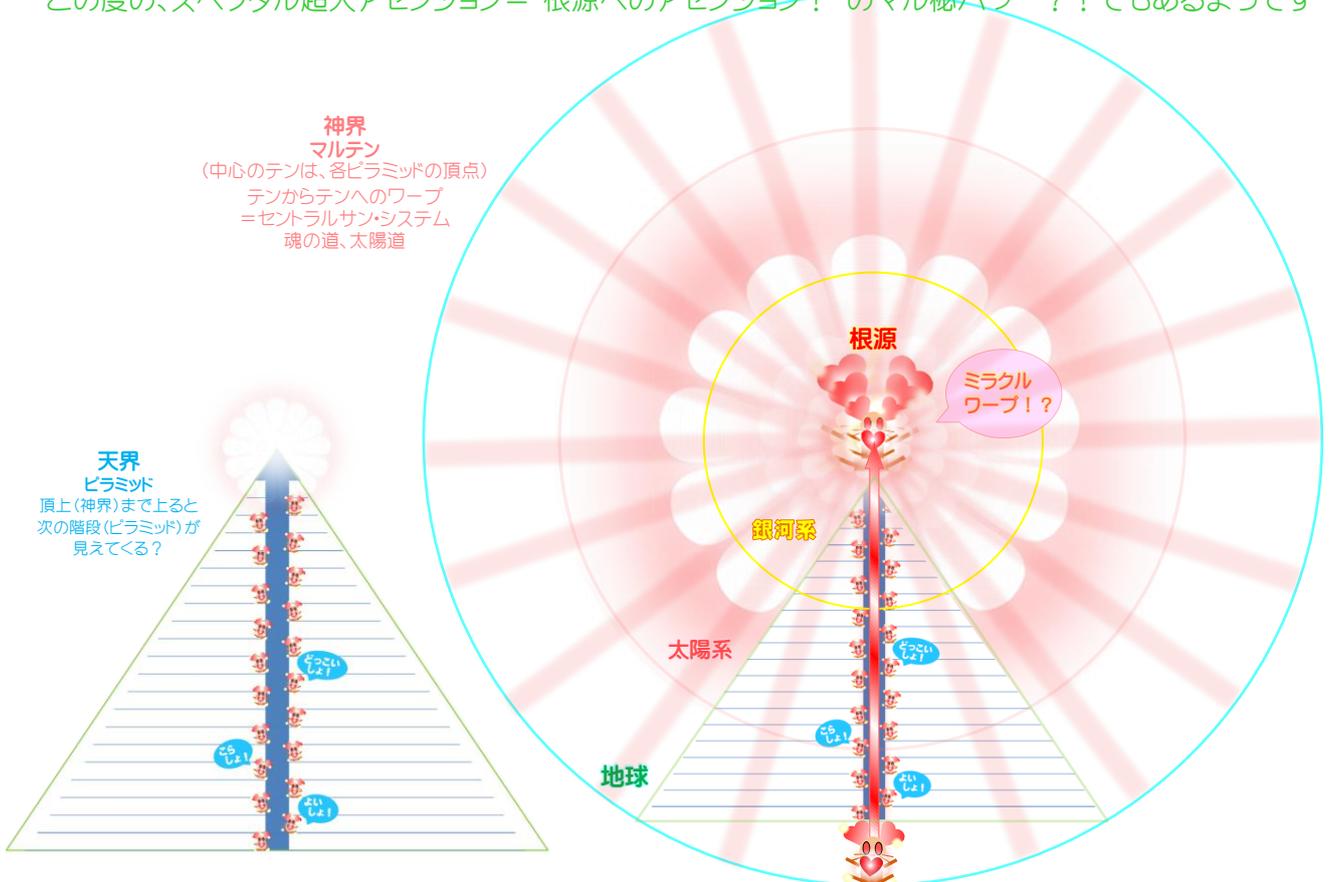
神界(魂)は、円(全体)の中心にある一つのテン(核、私達の魂=太陽)から、

同心円で表される各神界の中心へと、一気にワープする感じ!

中心(核)から中心(核)への太陽道、“セントラル・サン・システム”と言われるものです^^

階段を一步一步上るのではなく、魂(5次元)→(太陽)神界(8次元)→根源神界(∞)の一足飛びを可能にする

この度の、スペクトル超大アセンション=“根源へのアセンション!”のマル秘パワー?! でもあるようです



「霊」も「魂」も「モノド」も、言葉を越えた世界にあるもので、呼び方にあまり意味はないのだと思います
神道は親子のつながりが大切とされ、子供が親を慕うように、難しいことは一旦抜きにして、
ハートを開き、素直(主に直)である事が、神人の入口、第一条件かもしれません(*^^*)

「進化の場」の図に関する説明文の中に、「モノドが神の子らの顕現の日の到来を待っている」とあります
それらは一見、私達とは全く関係のない、別世界の出来事であるかのように感じられますが
実は、モノドが待っているのは、その器となる進化(神化)した私達＝“神人”の誕生！ではないでしょうか？
その時はじめてモノドは、その願い、悠久の夢を、叶えることができるのだと思います^^

昔見た映画、「ネバー・エンディング・ストーリー」が浮かんできました
随分前のことで、記憶が定かではありません^^;が、最初の場面が特に印象に残っています
一人の気弱だけど、想像力豊かな少年が、書店で一冊の本に出会います
それはただの本では無い事をおじさん(店長?)は彼に告げますが、
少年にその意味がわかるはずもなく、店長の目を盗んで、その本を持ち出してしまいます
何も言わずその姿を見送るおじさんの顔がとても印象的で、その表情は期待と確信に満ちていて
まるで、時空を超えた夢と冒険の旅＝真の宇宙へと若者を送り出す、アセンション・マスターのような感じです
少年は夢中になって本を読み進めていくのですが、ある場面で、その物語の中の勇敢な主人公が、
実は、自分自身である事に気付いて、ビックリ仰天！(Me too！笑)

中今リアルに感じている事は、その物語が、少年にとってただの物語ではなかったように、
その映画は私にとって、ただの映画ではなく、まるで今という時の“予告編”であったのでは？ということです
もう目に見えるもの＝肉体と地球、夜空に輝く星。。。だけが、私達の住む世界ではなくなっていて
映画はいつも、常識や固定観念の枠を取り払い、∞の可能性の未来を示してくれる、アセンション・ツールと感じます
自身がこれからどうありたいか？どんな風に生きて行きたいか？についての、ヒントを与えてくれます
自分の未来を、自分の意志で選択し、力強く進む時代が、中今という、“アセンション・シーン”なのだと思います
振り返ってみると、“アセンション”について学び初めてからの私は、常識では説明のつかない
不思議な出来事に囲まれている気がします^^

私の回りで起こっていることの全てが、物語であり、創造の世界なのでは？という感覚です
全てを自分の思い通りに動かす力はまだありませんが、世界を創造しているのは私達?!という予感です^^

人の持つ7つの素因の一番上にあるのが、アートマー＝“霊的意志”とされます
人の“意志”が、それほど偉大であることを、多くの人知らないまま生きてきたのは何故なのでしょう？
それは、準備が出来ていなかったため——、と浮かんできました
意志は、神の子なる“人”の持つ、最高・最大の力であるが故に、絶対に“愛の意志”でなければならない
力愛不二であり、もし“力”だけに偏ってしまえば、全ての破壊へとつながる可能性もあります
神は、人類がこの宇宙で最も偉大な“根源の究極の愛の意志”を学ぶために、とつても大変(笑)で、超楽しい^^
この地球を与えてくれたのではないのでしょうか？

私が創りたいのは、根源の愛で一つ！となった宇宙、誰もが笑顔で、助け合い、喜び合う世界！
それだけです！その雛形が“愛と光の星、ハムワンダーランド地球”です！(*^^*)

大脱線となってしまったようですが…、本文へともどります^^

「モノドと称されるこれらの個々の意識は、「息子」と言われ、創世期の初めより「父なる神のみ胸」の中に住み、
「苦悩を経て完全」とは、まだなっていない。」

「本拠であるアヌパーダカ界層では全智、全能であるのに、他の界層では無意識であり、「愚か」である。

彼は自分を盲目にする質料の中に、自分の栄光を覆い隠すことになる。

それというもアヌパーダカ界層だけでなく、他のあらゆる界層においても全智、全能となり、最高の層の波動だけでなく、宇宙におけるあらゆる波動に 대응できるようになるためである。」

「もともとモナドの存在は第一ロゴスに由来しているのであるから、ロゴスの顕現しようとする意志は、同時にモナドの意志でもある。故に、個々の「我」の進化の全過程は、モナド自身が選んだ行為なのである。我々がこの物質の世界にこうして存在しているのも、モナドとしての我々が生きることを意志したからである。我々は実に神我によって動かされ、神我によって決定されているのである。」

真の私達(=“魂”)は、苦悩を経て完全になろうとする“モナド”であり、全知全能の“ロゴス”です。モナドはアヌパーダカ界層に残り、第三ロゴス(第一外流)と第二ロゴス(第二外流)の下降の進化(逆進化、内転)が最下点(鉱物界)に達すると、今度は上昇の進化(外転)が始まります。群魂をもつ動物の中から、一個の魂を占有する人が誕生し、上昇進化(アセンション)の道を進んでいきます。

③ 通常の間、動物、植物、鉱物およびエレメンタルの進化の間

「大多数の間の場合、意識は第三メンタル亜層以上には昇らないものである。彼の発達が進むにつれて初めて、魂はその意識を第二あるいは第一メンタル亜層にあげることができるようになるが、それも徐々になすのみである。」

② 通常を超えた進化の間

「彼の意識の中心は、たいていの人々のように物質(肉体)界層やアストラル界層にあるのではなく、高位メンタル界層とブッディ界層との間にある。

彼の高位メンタル体(すなわちコーザル体)と高位アストラル体とは、その下位部分よりもはるかに発達しており、肉体は一応は保持しているものの、それはただ一つの点として示される程度であって、ただ肉体をまとして働く便利さのためであり、決して彼の想念や欲望が肉体に定着しているためではない。そのような人は、人間を化身(肉体をまとして生きること)にしぱりつける一切のカルマを超脱しており、したがって下位の体をまとしてはいても、それはただ人類のために働くのに都合がよいからであり、それらの体を通じて物質、アストラル、メンタルの各層でエネルギーを注ぎ出すのに都合がよいからである。」

輪廻転生からなかなか抜け出せない私達は、超人となるだけでも、とても高度で、困難なことに感じられますが

日の本に住む私達が、最終的に目指す“根源へのアセンション”とは、②の“超人”となり、更に、①のアヌパーダカ界へと到達した“神人”として、ロゴスの活動の間へ加わる事なのではないでしょうか？

この場合“モナド”を“御神体”と置き換えると、(日本人である)私にはしっくりくる感じがします。“御神体”とは、根源神に最も近いその分御魂=個としての最高神格であり、“魂”は地上セルフに最も近い分御魂=自己の最初のハイアーセルフ(高次の自己)とされるので御神体は、個(子)の神としての意識をもつことが出来る、最終地点であり、ここではアヌパーダカ界層にあたるのだと思います

どこまで進化したとしても、その更に上がある事(ここではアーディ界層)を、

私達は、決して忘れてはならないのだと思います

自己の御神体と一体化した神人は、宇宙史において築き上げてきた全ての学びの成果、壮大なネットワークを今この地上に結集し、新しい宇宙(NMC)における、

あらゆる全てとの、愛と光のコ・クリエーション(協働創造)！を、可能にするのだと思います

下記がそれを表しているように感じます

「アヌパーダカ界層だけでなく、他のあらゆる界層においても全智、全能となり、

最高の層の波動だけでなく、宇宙におけるあらゆる波動に 대응できるようになるためである。」

日本は古来より、天照大神を中心とした太陽神国であり、

地球が(創始の願いの通り)宇宙の中心となった中今、“根源太陽神国”でもあります^^

「天界全体からの要請により、NMC(新マクロ宇宙)の核心となった“根源天照皇太神”=アーディ界、

その最初の分御魂である私達の“御神体”(モナド)=アヌパーダカ界

アートマー界~アストラル界(全天界)を統合した、真の^{ひと}白戸(魂=中心太陽)が住む、この地上=物質界

七界層全てが揃った奇跡の時空が、中今の地球であり、日の本“日本”です!

太陽神国日本からはじまる、宇宙史上初!究極の“地上から根源へのアセンション”がここにあります!



《 モナドと恒久原子について 》

モナドはその性質上、アヌパーダカ界層より下位界層には、直接降りることはできないとされます
ではどのようにして、物質肉体をまとった私達“人”に関わる事が出来るのか?その鍵が、恒久原子にあるようです
それらについての理解が深まれば、モナド(神)をもっと近くに感じる事が出来るのではないのでしょうか

「モナドは「輝き出」て、その生命光線(レイ)を放つのである。

モナド自体は終始「父のみ胸の中」にいるのであるが、その生命光線は質料の太陽に流れ出て、
そこでアヌパーダカ以下の各界層での進化に必要な材料を充用するのである」

「モナドは「観察者」、「傍観者」、「行為なきアートマー」ともいわれるが、
彼自身は常にその固有の領域ともいべきアヌパーダカ界層にあって、最高の本性を維持しているのであるが、
同時に彼の光線すなわちアートマー=ブッディ=マナスによって、下位の世界にも住み、次に、
この光線(アートマー=ブッディ=マナス)によってその影、すなわち地上において幾度となく転生する低我を
活気づけている。ここにモナドの神秘が存在する。」

「モナドには意識の三面があり、各面は進化過程の開始の時機が来ると、波動とでもいべきものを起こし、
モナドを取り巻くアートマー、ブッディ、マナスの各界層の原子質料に波動をおこさせる。

既存の宇宙よりやってきたデーヴァたちは、モナドの意志面より発する波動は、
これをアートマー界層の原子に導き、かくしてそれはモナドに附着し、モナドのアートマー恒久原子となる。
それは進化の全行程を通じてモナドにとどまるために、「恒久原子」といわれる。

同様にモナドの英智面より発する波動は、

デーヴァによってブッディ界層の原子に伝えられて、ブッディ恒久原子となる。
さらにまた同様に、モナドの行為面より発する波動は、デーヴァがこれを導いて、

マナスの原子に附着させて、第三番目の恒久原子となる。

このようにして、しばしばモナドの光線(レイ)といわれる、アートマー=ブッディ=マナスの三複合が形成される。」

「モナドはこれら三つの原子を自己専用に着ると、自分の仕事を始める。彼自身はその性質上、アヌパーダカ界層より下に降りる事はできない。そのために「沈黙と闇」との中にいると言われる。

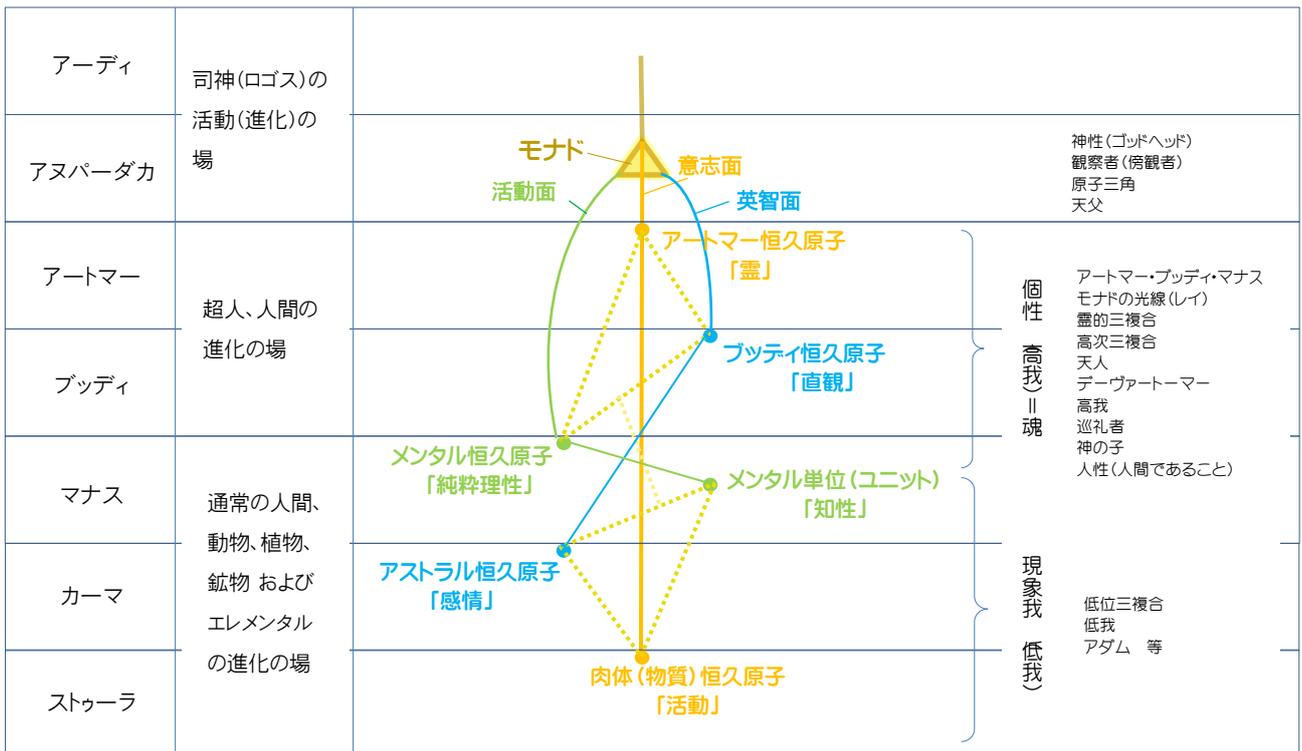
その意味は、現象界には顕現しないということである。

しかし彼は自分の専用と定めた原子の中に、かつ同原子を手段として働く。」

「モナドは進化が進むにつれてその生命を着実に、かつ次第次第により多く注ぎ下し、その光線(すなわち高我と、高我を通じて低我)と、次第次第に、より密接に接触するようになる。」

下記にモナドと恒久原子の関係を、神智学大要の図をもとに、描いてみました

【モナドと原子達】



「図は、人類が現在到達した段階すなわち、三側面を有するモナドが、

アートマー=ブッディ=マナスという高位三つ組みを備えること、およびその高位三つ組みが、今度は低位の、マナス=カーマ=肉体(スツウーラ)を摂取している様を示す。」

図にすると、各界層に現れるモナドの姿、様々なレベルの三位一体が、よりわかりやすくなった感じがします

アヌパーダカ界層にある、モナドの三つの側面(意志、英智、活動)

その三側面が、アーディ、ブッディ、マナス(高位メンタル)へと降りて出来た、霊的三複合(高我、高位三つ組み)

更に高位三つ組みが、マナス(下位メンタル)、カーマ、スツウーラ(物質界)へと降りた、低位三複合(低我)

モナドは光線として輝き出でて、各界層の原子に付着し、進化の目的を果たそうとしている姿が恒久原子を頂点とする三角形(三位一体)となって、目に見える形として理解されるような気がします

原子については、『ハムのワクワク神智学(1)』の中で、少し触れています

7界層の一番上、アーディ界第一亜層(原子亜層)は、太陽ロゴスの第三側面の意識の点(光)からなり、

その意識の点が螺旋を描きながら、より複雑・精妙に結びついていく事で、

次々と、下位の各界層の第一亜層(原子亜層)が形成されていくことを学びました

各界層の第二から第七亜層は、第一亜層原子が二つ、三つ、四つ等のグループとなって出来たものであり

一番下(最下層)の、最も密度の濃い世界が、私達の住む物質界となっています

限りなく繊細な波動のモナドは、原子という梯子をつかって、私達のところまで降りてくる？
なんとなく、その梯子をよじ登れそうな気がしてきました(笑)^^

図を描きながら、思った事があります

モナドの三側面の内の「意志面」は、一番下の物質(肉体)恒久原子からアートマー恒久原子へと
さらにはアーディ界(ロゴス)へと、真っ直ぐにつながっていて
まるで神への、最短垂直上昇コースに見えます^^

私がアセンションについて学びはじめてから特に意識するようになった“意志の第一光線”と重なりました
『神智学大要4.コーザル体』の中で、第一光線について、このように記されています
「第一光線タイプの方は、手段といった性質のものを使用することを潔しとせず、全くの抵抗しえない
意志の力によって、目的を達成しようとする。」

自身の性格そのまま(笑)というか、“意志の第一光線”はもしかしたら
知識や特殊能力のない地上セルフにとって、最強のアセンション・パワーなのかもしれません！
もちろん、“根源の愛の意志の第一光線！”=ハムパワーです！^^



ここでは触れませんが、『神智学大要4.コーザル体』の中では、群魂しか持たない動物が、
一つの魂を有する人となるまでの過程が、詳しく記されています
それは広大な宇宙の、長い進化の道程の果てにあり、すべての人は、生まれた瞬間から
この上なく尊い、奇蹟の中にいる…、と言えるのではないのでしょうか

「我々は今や進化しゆく生命に、重大なる変化がまさに起ころうとする段階に達した。

すなわち動物の個人化、コーザル体の形成、人間界への移入である。」

「この個人化を遂げることが、動物の進化の目的であり、動物の発達はある目的に役立っているのである。

その目的とは、ある強力な、個々の中枢を造ることで、この中枢を通じて
やがては司神の力が、注ぎ出るようにすることである。」

「前述の中枢を造る目的は、それを通じてロゴスの力が、世界に放射されることにある。

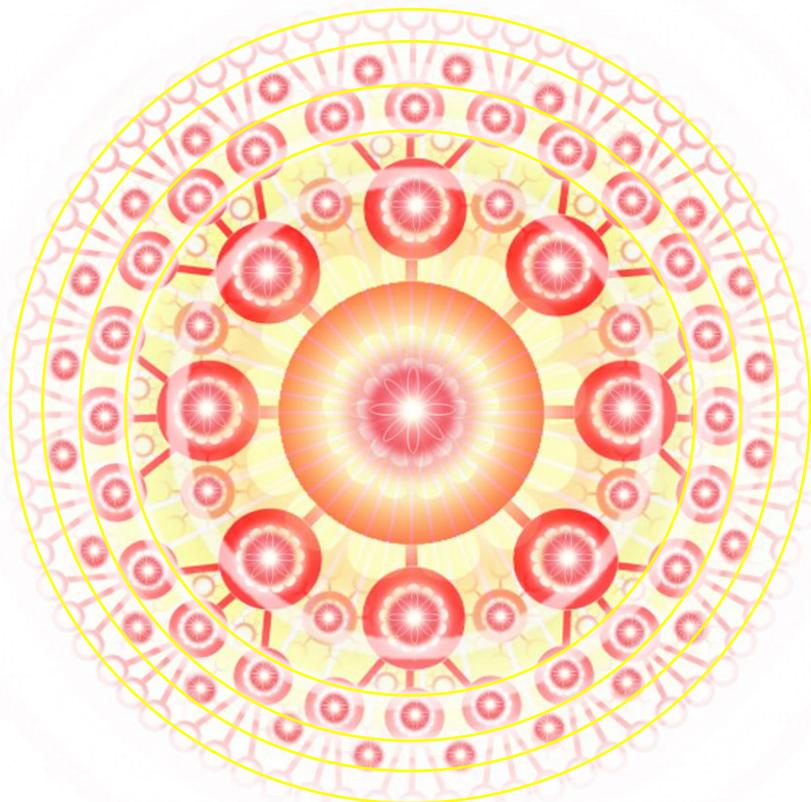
もし、利己主義がいつまでも存続していたのでは、このような放射は全く不可能となる。

とはいえ、初期の段階においてこの利己主義がなければ、中枢の確立もまたありえなかつたはずである。」

進化(上昇、内向きの進化)も、逆進化(下降、外向きの進化)も、すべて神の計画であり、

必要があって存在する事がよくわかります

ロゴス(神)の目的とは、人という中枢(器)を通して、神自身の力を宇宙に顕現、拡大していくことにあり
新しい宇宙(NMC)の雛形“新地球”において、私達人は、根源太陽の中枢である“日戸”となり
根源の究極の愛の光を、∞に拡大していく時が来たのだと思います(***)



《 コーザル体の機能 》

コーザル体は因体とも言われ、この体の中に、それよりも下の各界層において、結果となって現れる
原因が宿っているところから名付けられたものとされます

「コーザル体には二つの機能がある。すなわち、

①魂の乗り物としての働き。コーザル体は「精神(マナス)」の体、個々の人間、真人、思考者の形体面である。

②人間の各生における経験の、真髄を容れる容器、あるいは貯庫としての働き。」

「コーザル体は各生における体験を、いわば篩にかけた後に残るもののうち、長続きしうるものはすべてその中に
織り込み、美德の胚種となるものを貯え、次の生まれ変わりまで、持ち越すものである。」

「あらゆるすぐれた、高貴なる思い、あらゆる純粋、高尚なる感情は上に挙げられ、
その精髓が、コーザル体の質料の中に組み込まれるからである。したがってコーザル体の状態こそは、
その人の成長、その人が到達した進化の段階の、本当の登記簿、唯一真実の登記簿である。」

「英智とは、幾度もの生まれ変わりの果実であり、多くの経験と知識との産物である。

かくして思考者の中には、もろもろの過去世においてかり入れ、
幾度もの再生を通じて収穫した、経験の貯庫がある。」

コーザル体は、輪廻転生サイクルにおける、全ての収穫の貯蔵庫であり、
この体においてしか、その人の本当の豊かさ、レベルはわからない、ということなのだと思えます
それぞれの人が、その人生におけるテーマを生きているのであり
どのような姿であろうと、ジャッジする事なく、真心で接するだけなのだと思えます

「下位の体は感覚、知覚を受け、扱い、観念を造り、かつ仕上げる。
しかしこれらを整理して識別し、それらを理詰めで抽象し、具体的なものより分離して、
純粋なる観念を扱うのは、コーザル体の仕事である。
したがってコーザル体の中には非具象的な、したがって五官のために混乱することもなく、
外界より干渉されることも決してないところの、純粋な、内部の働きがある。
ここに純粋なる智慧、明澄なるヴィジョン、五官によって動かされることなき智慧、
静かなる、強大なる、穏やかなる智慧があるのである。」

《 コーザル体の構造 》

「普通の人の場合コーザル体はまだ十分には活動しておらず、
したがって第三亜層に属する質料だけが、賦活されている程度である。
魂がその永い進化の道程において、潜在している可能性を展開させていくにつれて、
高級な(すなわち第二、第一亜層に属する)質料が活動するようになる。
しかしそれが最大限度に発達するのは、
我々が、超人あるいは大師と申し上げている、完成した方々の場合だけである。」
「コーザル体を十分に説明するのは難しい、というのは、コーザル界に属する感官は、
我々が物質界層で用いている感官とは全く異なり、しかもそれよりも高級だからである。
霊眼者がコーザル体の外側を見た記憶によると
(コーザル界で霊視したものは、肉体脳に刻印されて記憶像となる)それは卵形を呈し
(高次元の体の形は、事実すべて卵形をしている)、肉体の表面から約一八インチ位まで外に伸びている。」
「抽象的思考ができるようになり、あるいは利他の感情がおきる段階に達すると、
コーザル体の質料も目覚めて、それに感応するようになる。
こうして目覚めた波動は、コーザル体の中で、色となって現れるようになる。
そうなると、それは単なる透明な泡ではなくなり、
世にも美しい、精妙な色彩の質料で充ち満ちた球体となり、その美しさは想像を絶するものとなる。」
よく仏像等の後ろに描かれている光背(後光)は、コーザル体の輝きを表現しているようです^^

《 コーザル体の思考 》

「具象的の観念は、自然と考えている通りの形を取る。
しかし抽象的の観念は、有形層に投げられると、普通はあらゆる種類の完全な、
きわめて美しい幾何学図形となる。
この物質界では、ほとんど単なる抽象でしかない観念は、
その多くがメンタル界層では、具体的な事実となることを、銘記すべきである。」
この文章を理解するのに、かなり?時間がかかりました(笑)
地上で目にする多くの物は、私達の具象的思考(具象思考)の結果生じたものであり
抽象的で物体化していない観念は、ほとんど意味のないもの、
というより、全く見えていないし、その価値を認めていない…、自分に気付きました
けれどメンタル界層では、抽象思考より生まれたものの方が、「完全な、きわめて美しい幾何学図形」であり
具象思考によって一時的に生まれる形より、規則性、再現性をもつ、より確かな事実である

ということなのではないでしょうか？

地上の当たり前は、宇宙の真実とは真逆だったりするのかもしれませんが

すごく損している気がするのは、私だけでしょうか(笑)

メンタル体の具象思考は、他との違いにフォーカスし、比較し、個別化するための思考でもあり

逆に、コーザル体の思考は、多くの異なったもの(個)の中から、共通部分を見つけ出し、より全体的、普遍的で、統合(根源)へと向かう思考である事が、自身の中ではっきりしてきた感じがします

「高位心と下位心との間には、働き方に外的な違いはあっても、

精神(マナス)すなわち思考者は唯一人であって、コーザル体内の「我」である。

それは無数のエネルギー、無数の種類の波動の根源である。」

「下位精神が次第に従属的地位をとるようになると、これらの魂の力は本来の支配権を取り戻し、

直観(物質界層における直視に類似)が思考に取って代わる。」

バラバラになっているものを集めて来て、組み立てて、推測している状態が“思考”で

“直感”とは、全てがそこにあり、全てを知っている状態＝コーザル体内の我、魂の持つ力でしょうか？

《 コーザル体の発達と能力 》

「ひとたび、コーザル体の中に織り込まれた善なるものが、後になって失われ、

あるいは消散するのは、何一つありえない。なぜならば、

彼が人間である限り、“善によるコーザル体の発達”こそが、生きている人間であるからであり、

“人間が人間である所以”である。」

「かくして進化の法則により、悪なるものはすべて、その中に自らを破滅させる種子を持ち、

善なるものはすべて、不滅の種子を自らの中に持っていることがわかる。

その秘密は、一切の悪なるものは宇宙の法則に対抗するが故に、不調和であるという事実の中にある。

故に遅かれ速かれ、悪はこの法則によって粉砕される。

これに反し、一切の善きものは、この法則に乗って前進向上する。」

「人間の経験はすべて細かい網、あるいはふるいにかけてられるようなものである。

善いものだけが透過し、悪いものは残され、受け入れを拒否される。

この事、すなわち永続する人間の乗物である、コーザル体というメカニズムの中にこそ、

人間の希望、さらにはまた人間の終の勝利の、確かさがあるのである。

どんなに成長が遅かろうとも、現に成長しつつあるのである。

道はどんなに長かろうと、終わりは必ずあるのである。

魂すなわち我々の大我は進化しつつあるのであり、滅亡することは全くありえない。

たとえ愚かなる行いのために、成長が必要以上におくれようと、魂に貢献するものであれば、

たとえ些細なものであっても、魂の中において永遠に生き続け、未来永劫に我々の財産となる。」

これらの文を読んでいると、「全部宇宙に任せておけばいいんだ！」という、熱い思いが込み上げてきます

人として生きていく上で、間違い、失敗は、山ほどあると思いますが

「心配はいらない、信じていいんだよ！」との、力強い声が、聞こえてくるようです

自分の声であり、宇宙の声であり、神(親)の声である気がして、感謝の気持ちで胸が一杯になります

いつも、どんな時も、ありがとうございます <(_ _)>

「これまで見てきたように、進化の後の段階になると、コーザル体もメンタル体も非常に発達して、

多彩な光を燦然と放ち、比較的静かな時は強く輝き、大きく活動している時は、目も眩むばかりの閃光を放つ。
 魂をますます多く表現しうるとなると、それは中心の肉体より遠くまで拡がり、
 ついには数百人、さらには数千人までも、彼自身の中に包容することができるようになり、
 従って、巨大なる善き影響力を、発揮するようになる。」

パンドラの箱の底に残った希望とは、私達人の持つ真の力以外の、何ものでもないのだと思います

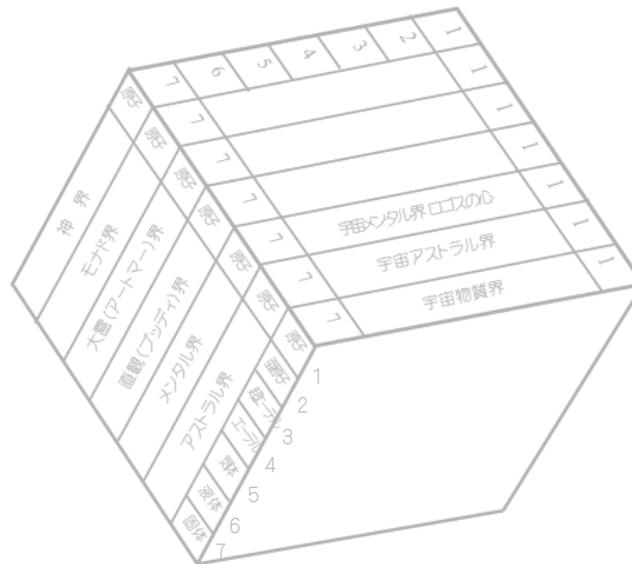
《 第七天界(メンタル界第一亜層) 》

メンタル界第一亜層は、肉体(とエネルギー体)を持つ“人”としての、大きな区切り、最上界層であり
 どのような所なのか?とても興味深いものがあります

「天界の中でも最も栄光に輝くこの層には、我々人類の出身者は、今日までのところ極めて僅かである。
 それはこの高みには、英智と慈愛の大師方、および秘伝を受けた弟子だけしか、居住されないからである。」
 「コーザル界層における形体、色、音の美しさは、いかなる言葉をもってしても、語りつくすことはできない。
 人間の言葉には、このような輝く美しさを表現する術がないのである。」

「第七天にふれて初めて、我々は宇宙大に展開している界層に接する。
 なぜなら、このメンタル界層の原子部分は、惑星ロゴスのメンタル体の最低亜層だからである。」

『神智学大要1. エーテル体』に掲載されていた、サイコロのような図が浮かんできます



「宇宙の諸界層」というタイトルがつけられています

宇宙は、地球、太陽系、銀河系等にもるように、界層構造となっていて、
 それぞれが7つの界層と7つの亜層によって構成されている(サイコロの一面)とされます
 各7界層の一番上(第一亜層、原子亜層)は、一つ上のレベルの7界層の最下層(第七亜層)となっているので
 第一亜層に達することで、異なるレベルの、より大きな世界(7界層)が見えてくる仕掛けのようです
 何回サイコロ振ったら、根源までいけるかしら?)^o^((昔懐かし双六遊び、笑)

「この亜層におられる方々は、精神の進化を完遂しておられるので、その内部で
 常により高き者が、より低きものを通じて輝き出ている。

この方々の目からは、すでに低我の迷妄のベールが落ち、自分が低い性情ではなく、
 ただそれを表現の場として使っているだけであることを、自覚している。
 この方々のうち、進化のややおくられている方達においては、この手段である低い性情は、

まだ邪魔になったり、手枷足枷になったりはするが、
それでも媒体を、その背後の「我」と混同する、愚に陥ることは決してない。

彼らの意識は、一日単位で今日から明日へと流れているのではなく、
一つの生から次の生へと、生単位で流れているので、

幾つもの過去世は、振り返ってみなければならぬものではなく、常に自分の意識の中に在る。

従って過去世は幾つもの生としてではなく、一つの生として感じられる。」

「メンタル界層のさらに高い界層には無形の大群があり、この方々にとってはコーザル体が最も稠密な体である。

この方々の生活は、我々の生活とは本質的に異なるので、物質界の言葉で説明することは不可能である。

無形のデーヴァ方は世界、人類、国家の指導に参与しておられる。」

「彼らの意識は、一日単位で今日から明日へと流れているのではなく、一つの生から次の生へと、

生単位で流れている」とはどんな感じなのか？私にはイメージしづらいですが^^;

人の一生を刻んでいるかのような時間とは、地上生活をおくるために設けられた、一つのルールのようなもので

5次元(魂)の世界では、原因と結果、過去と現在と未来が、同時に存在していると言われます

ということなのだろう？と想像してみると、そのような世界に意味があるのかしら？とも思えてきます

私達はそれぞれに何かを達成する、その過程を実感したいが為に、タイムテーブルを作成し、コツコツ取り組みます

また、未知の可能性に心ときめかせながら、日一日を頑張っている気がします

その過程において、様々なことを感じ(アストラル)、学び(メンタル)、つかみ取っていく(コーザル)のだと思います

時間は、低我としての学びに必要な、一つの要素なのかもしれません

けれど、地上の私達は、時間というものに対して、間違っただけの思い込みがあるのでは？とも感じました

多くの場合(私の場合?)、「過去がこうだったから今がこうで、きっと未来もこうなるに違いない…」という、

諦め半分とも言える、決められたルールのような時の流れをイメージしていて、

「今ここ」という中心点が、曖昧になっているのでは？という点です

宇宙の科学では、「今ここ」だけが真実とされ、今が変われば過去も未来も変わると言われます

私の想像ですが、5次元の世界では、「今ここ」と、それに見合った(同じ波動、レベルの)「過去」と「未来」が

それぞれセットになった世界が無限に存在していて(平行時空)、どの「今ここ」を選択するかで、

それに相応しい「過去」と「未来」が、もれなく一緒についてくる。。。 (笑)、という感じでしょうか？

3次元社会では、「今ここ」にもれなくついてくるはずの未来が現れるまでに、タイムラグ(時間差)が生まれる…

また、恐れや不安によって、選択する「今ここ」がコロコロ変わるので、注文とキャンセルを繰り返している…

ということなのかもしれません^^

だとしたら、常に最高の「今ここ」だけを選択(実践)し、あり続ける事が、願い実現の最短・最速コースなのでは？

(時々、自分が今どこにいて、何を言っているのか？言いたかったのか？わからなくなります<_>) 時空がグチャグチャ？笑)

「意識が増大して、その分野が広がるにつれてますます、一段と高い質料、

すなわちアストラル質料の中で、より多く働き始めるようになる。

ずっと後の段階で、すなわちアストラル質料の中で、ハッキリと働くようになる、

メンタル体の質料を通じて、自分自身を表現し始めるようになる。

さらに後になって一層高次の界層で、物質界層で現在しているように、コーザル体の質料の中でも、

十分にかつハッキリと働くようになった時初めて、現在の彼の努力の目的が達成されたことになるのである。」

好きな事に熱中している時は、あっという間に時間が経ち、気が乗らない時は、なかなか進まない。。。

時間もまた、意識によって変わるのであり、私達の意識がコーザル体にまで進化した時、その長さ云々ではなく、

それを必要としなくなる、逆に、自身が望む現実を創造するために時間を利用する？という事でしょうか

今このタイミングで地上に生まれしてきた私達は、生まれる為の条件である、すべての記憶のリセットによって、すでに経験したこれらのステップを忘れていく場合が多く、ただ思い出すだけでも言われます
一旦目覚めたならば、そこからの進化はジェットコースター！のようだと？！^^

いつも「世界、人類、国家の指導に参与しておられる無形のデーヴァ方」に、感謝です

<し>



(話は逸れますが)多くの方が家族のように可愛いがっているペットは、なんと、私達人が注ぐ愛情によって、人間へと進化する道が開かれる場合があるとの事です
「愛情による個人化…もしその主人が強い愛情にみちた人であれば、その動物は多分にアストラル体を通じて発達し、群魂とのつながりは、突然何かある烈しい愛情がほとばしることによって切れ、その愛情は、その上に浮かんでいるモナドのブッディ面に達し、かくして魂が形成されることになる。」
全ての生命にとって、愛の力は偉大ですね^^

《 “魂” は真の自分 》

「魂が降ってゆく過程は、すべて魂の発達が目的なのである。
魂が質料のベールをやぶるのは、まさしくそのことによって、自分の反応する範囲において波動に反応し、そのことによって、自分の潜在しているもろもろの能力を、展開するからである。」
「我々が悪と称している考え方は、すべて魂にとっては、思いもよらぬ不可能事である。
なぜならば、魂の中ではいかなる特質が発達したにせよ、それは純粋だからである。
たとえば魂の中にあるのが愛情とすれば、それは嫉妬や羨望や利我によって汚染されることは全くない。
それは魂が、魂自身のレベルで再現する限りの、神の愛のうつしである。
そのうえ魂が間違ふということはまずない。魂が何かについて欺かれることもまずない。」
「普通の人の場合、アストラル体とメンタル体との間には、いつも緊張状態が続いており、その場合両体とも魂に同調することなど決してしないし、魂の器として働ける状態にもなっていない。
必要なのは、まず低我を浄化することであり、
低我と魂との間のチャンネルが開かれ、広がらなければならない。」
「魂が自分自身を下に降ろす全目的は、もっと明確となること、美しくはあるが臆な感情を行動に移す、
明確なる決意に結晶させることにある。
彼のあらゆる生まれ変わりは、正確と明確とを得るための過程である。」
コーザル体の主、低我を導く真の自己＝“魂”は、ただただ純粋で、美しいのだと思います
低我は人として生きるために、様々な術を身に着けなければならず、いつも緊張状態にあるため、
微かで繊細な魂の声(波動)に、耳を傾ける事が出来ない…
＝真の自分を生きていない——、ということになってしまうのだと思います
低我の中心には“ハート”があります



ハートを思い浮かべるだけで、なんとなくホットする、自己の“オアシス”のような感じですがそれは気休めではなく、実際に“魂”へとつながっている、美しいクリスタルの門です
嬉しい時や、感動した時、ハートが反応し、熱く震えているのを感じます
ハートは時々、真の自身をストレートに表現していますが
私達は、ほぼ無意識のまま、通り過ぎてしまう…のではないのでしょうか？
ハートは、人がもつ7つのエネルギーセンターの中の、最も重要な、愛のエネルギーを司る場所です
もっと意識的になること、活性化させる事で、愛の度数が高まり
その源であり、自身の愛の太陽でもある“魂”と、一体化していくのだと思います
低我における“愛の砦”とも言うべきハート！「私を忘れないでね～」って、聞こえてきませんか？^^



《 魂と低我 》

「人は魂を直に見うるようになるまでは、その魂がいかに偉大であるか、いかに肉の存在よりも、限りなく賢明であり強大であるかを、うかがい知る事はできない。

実は人は皆、みかけよりは遥かにすぐれているのである。」

「魂が発達して、生き方に影響を与えるには、三つの方法がある。

①は、科学者と哲学者の道。

この道は下位精神だけでなく高位精神も発達させるので、高位精神のすぐれた抽象的、包括的な想念が意識の中に下りてくる。

その後やがてはブッディ意識が現れるようになる。

②高級な感情たとえば愛情、献身、同情などを使って、

中間のコーザル体を超えて、ブッディ体を大きく目ざませる方法。

③前二者に比べてあまり知られていない方法で、意志をはたらかせること。

この方法によって肉体がアートマー質料に反作用を及ぼすのであるが、

詳細については、ほとんど知らされていない。」

「実は人は皆、みかけより遥かにすぐれている」と気付くことは、
真の自分を思い出す事＝覚醒であり、完全に魂(最初のハイアーセルフ)と一体化し、
自己の現実の創造主となっていく

それが、これまでの地上における、アセンションのゴールとされてきました
けれど、今この地球にいる私達は、宇宙の様々な次元における、長い進化の道程を経て
万端の準備を整えて、ここにやって来た！

肉体を持つ人(地上セルフ)に、宇宙の全ての次元のハイアーセルフ(及びそのネットワーク)を統合する事！

それは、“神(天)人”となる事であり、自己の宇宙史における進化の学びの、すべての成果をもって

NMCの雛型である“新しい地球”を、協働創造していく為に！

「みかけより遥かにすぐれている自分」が、なんとなく見えてきませんでしたか？^^

「魂が発達して、生き方に影響を与える三つの方法」の

①は、下位メンタル体(低我)と、高位メンタル体(高我、魂)の

②は、アストラル体(低我)と、ブッディ体(高我、魂)の、

③は、肉体(低我)と、アートマー(高我、魂)の関係と、進化の様相についてが
具体的に説明されているのだと思います

私達は何度も生まれ変わることによって、それらの課題(①~③)を選択し、
超人、そして神へと至る、果てしない進化の道を、歩み続けてきたのではないのでしょうか?

①と②については、なんとなく想像がつく?(経験している)気がするのですが

③は、「詳細については、ほとんど知らされていない」とあるように、
“中今”に関するもので、今この時に、最も重要な事なのかもしれない…、そんな気がしてきました

「意志は支配者、「この事を為すべし」と命じはするが、

自らがでかけてなすことはしないところの支配者、あるいは王である。

心理学的に言えば、意志は一つの事に意識を集中しつづけて、他のものを排除する力である。

それ自身は完全に穏やかで、静かで動かないのである。

それは前述のように一つの事物だけを保持して、他のすべてを排除する力であるからである。」

「人間の意志力を正しく向けるならば、その限度を決めることは、ほとんど不可能である。

それは普通の人々の想像を、はるかに超えて偉大であり、

そのような意志力によって得られる結果は、常人には驚天動地、超自然的としか思われぬ。」

「おそらく意志を発揮して成功を収める、最も重要な要素は、完全なる確信である。

それはもちろんその人のタイプに応じて、種々の方法で得られる。」

「それ自身は完全に穏やかで、静かで動かない——」、まさに、私が感じる“神”の姿であり
浮かんでくるのは、「ハムのワクワク神智学(1)」で掲載した、「太陽系ロゴスの三様」図(P.8)の中心軸

その頂点に位置する“第一ロゴス”です

もろもろの働き(第二、第三ロゴスの働き)の最後に姿を現わす、その核心(核神)——

“意志の力”とは、第一ロゴスへと続く、限りなく神聖な“正中”(中心軸)を、真っ直ぐに進んでいく力であり
そこには、神の意志以外には何も存在しないのだから、その道を、ただひたすら進めばよい!

私の中の“確信”とは

自己の悠久の宇宙史における、全ての学びを通して

“神(宇宙)とは、究極・至高の愛である!!”という、確たる信念であり、中今

宇宙根源の、“究極の愛の太陽(母神)”へと続く正中

=“根源へのアセンション”道を、真っ直ぐに進んでいく!!との、決意です

驚天動地、超自然的とも言える、根源の、“究極の愛の意志力”によって

ここに、地上天国(弥勒の世)を創生します!!!

《 得度(イニシエーション)について 》

私がアセンションを学ぶようになって、はじめて知った言葉のひとつに“イニシエーション”があります
“大白色聖同胞団”(聖白色同胞団)なる存在によって管理される

進化の一過程を終了(達成)した認証と、次のステップへの合図?のような感じです^^

神智学には、大師が様々な方法で、その弟子達をイニシエーションへと導いていく過程が記されていて

それらは、私達とは別世界で起きている、特別な出来事のように思っていました

進化(アセンション)は、宇宙全てにとっての目標なのだから、誰もが通る道とも言えるのではないのでしょうか?

神智学大要の中で、大師についての説明としては、

「聖白色同胞団(別名=聖職階団)の高位の盟員。神の経緯に従い、人類および人類以下の
生きとし生けるものの進化を霊導する。」とされていて

一般的に、スピリチュアル・ハイ(ア)ラーキー(靈的聖師団)と呼ばれる存在を指すのではないのでしょうか?

大白色聖同胞団については

「大白色聖同胞団への加盟(その時初めてコーザル体は消滅する)」

「大白色聖同胞団は大貯源から、高位メンタル界層にいるあらゆる魂に対して、例外なく力を注いでおられ、
かくして内なる生命の展開に、最大の援助を与えておられる。」

「世界における最も親密なる組織の一部、すなわち、大白色聖同胞団の意識の大海と一つになる。」

とあり、抽象的で、詳しいことはわかりません

あまり詳細にこだわっていると、本筋が見えなくなる…。私はいつもそう思います

なんとなく本質がわかれば、あとは自分がそれをどう展開していくか、より楽しく進化していくか?

ハートと魂の導きのままに!それが、もっとも大切なのではないのでしょうか^^

現在、高次元の存在はすべて一つとなっていることが、『天の岩戸開き』の中に説明されています

今回の宇宙史の最終・最大のアセンションのために、AD2000年以降

「あらゆるすべての愛と光の高次」は、「ONENESS」ワンネス、ひとつとなっています!

大いなるすべての源、一なる至高の根源神界、すべての神界、すべての天界

そして神智学で言う、スピリチュアル・ハイラーキー、アセンディッド・マスター方はもちろん

アインソフ評議会、大天使界、聖母庁、キリスト庁、メルキゼデク庁、宇宙連合、銀河連合(連邦)、太陽系連合
インナーアース連合、それらのすべてがひとつなのです!

もちろん、皆さんのハイアーセルフとそのネットワークも含まれています

その尊称を、「スピリチュアル・ハイラーキー」としています

その中で、自身にとって中今、最も気になる存在が、“宇宙聖白色同胞(朋)団”(GWBH)です^^

「宇宙聖白色同胞団」(グレート・ホワイト・ブラザーフッド、GWBH)とは

「スピリチュアル・ハイラーキー」の中でも、宇宙の創始からのマスター方を指しますが、

とても高度なレベル——、その最も本質的なところを、シンプルに述べますと、

惑星、太陽系、銀河、宇宙の各レベルの「セントラル・サン」の役割を持つネットワークです。

「セントラル・サン」とは、私達の中心太陽である“魂”から、地球の中心太陽、太陽系、銀河系の太陽へと

究極には、NMCの核心“根源太陽”までつながっている“太陽道”であり、

まさに、私が目標としている正中=“根源へのアセンション”道そのものです^^

自身の故郷である“白山”の“白”が入っているから…。という単純発想によるものでもあります(笑)

イニシエーションとは、すべての存在が根源へ帰るためにある、正式な進化のステップであり、

私達は、聖白色同胞団によって導かれ、支えられているのではないのでしょうか
「聖白色同胞団」は、別名「聖職階(階)団」と言われ、位階が明確となった、ピラミッド構造の天界組織であり
様々な光線の働きと言えますが、そこに「白」(光源)が入る事によって、神界がイメージされます
先に記した、マルジュウ(天界)にテン(神界)が加わった“マルテンジュウ”=“神(天)人”の図につながり、
今この時のためにあった、最も古く、そして最も新しい、マスター集団を感ずります^^



イニシエーションは、∞の自由を与えられているが故に、迷える子羊?となりそうな、私達“人”に対する、
根源の神の“愛のかたち”なのではないのでしょうか^^

ウィキペディアの中では、白色同胞団(グレートホワイトブラザーフッド)について、下記の説明があります

「グレートホワイトブラザーフッド(白色大同胞団)は、神智学やニューエイジに見られる概念で、
選ばれた人間を通して、霊的な教えを広める、偉大な存在とされる。

同胞団のメンバーは、神智学の古代の知恵のマスターや、またはアセンデッドマスターとして知られる。

その概念を最初に語ったのはヘレナ・P・ブラヴァツキーであり、

後に神智学協会や、その教えを継ぐ他団体によって、発展・拡大された。」

「グレートホワイトブラザーフッドは、グレートブラザーフッド・オブ・ライト(光の大同胞団)、

または地球のスピリチュアル・ヒエラルキーとしても知られている。

地球から不死の存在に上昇したのちも、依然として世界中で人々を見守り続けている、

アセンデッドマスターによる霊的組織である」

また、グレートホワイトブラザーフッドを創設したのは、

地球の中心にあるとされる理想郷“シャンバラ”に住む、サナート・クマラとされる存在で、

私のハートと魂に響いた一文が下記です^^

「私は、光と愛以外のどんなものとも関係がなく、

2つのライフストリームが、(同胞団の)会員として申請するまでに、何世紀も経ちました。

ひとつは後に仏になり(現在、世界の主、惑星のロゴスであるゴータマ・ブッダ)、

もうひとつは宇宙のキリスト(主マイトレーヤ、惑星のブッダ)となりました。

同胞団は、何世紀もの期間をかけて成長してきました。

ほぼすべてのオフィスは、地球の進化を担う人たちと

その中でボランティアとして貢献してきた人たちによって、運営されています。」

世界中で、知らない人はいないのでは?と思われる、“仏陀”と“キリスト”の名が見えます

私にとっての仏陀は英智(光)の、キリストは愛(ハート)の象徴のような存在で

私達と同じように、一度はこの地上に肉体をもって生まれ、今もなお、愛と光によって私達を導いてくれる

偉大なマスター方なのだと思います

グレート・ホワイト・ブラザーフッド(GWBH)が、とても身近になった感じがします^^



← 白地に“白”で、ほぼ見えてませんが…(笑)

“新GWBH”のイメージです^^

36色(∞、ミロク)の光線の動きを秘めた、

真っ白なフォトン(根源の光)の輝き!

中心に見えるのは、根源の愛の子供“ハム”

私にとっての、“白山神界&菊理姫”!でもあります^^

大白色聖同胞団(グレート・ホワイト・ブラザーフッド)や、シャンバラ(地底都市)、
サナート・クマラ(地球霊王)等は、本当に存在するのかしら？
根源の愛の意志の子供“ハム”から連想されるのは、アブラハム(モリヤ)?!ですが…(笑)
ハートと魂の事がだんだん見えてきたように、それはこれからのお楽しみ。。。ですね！^^

“イニシエーション”には、細かな段階があって、
人の第一弾！目標としてあるのが、コーザル体に住む“魂”との一体化なのだと思います
低我として、肉体(とエーテル体)、アストラル体(感情体)、メンタル体(精神体)のバランスを整え
真の人が持つ力を、最大限に発揮することの出来る、
魂(コーザル体の主、高我)と一体化した^り戸、^り靈止(人)となる事であり、さらに、
魂の源なるモナドとの一体化、ロゴスとの一体化、根源への回帰へと繋がっているのだと思います
その最も重要な土台、基礎造りが“人格”の形成であり、人として当たり前の姿、
愛を中心とした、豊かな地上生活を送る力を育てることで
その積み重ねの先にあるのが“神格”、神人の住む世界＝“新しい地球”となのではないのでしょうか？
その実現が、個人的妄想、単なる思い込みではなく、宇宙のシステム(仕組み)であることを
明確に示しているのが、“イニシエーション”なのかもしれません

「魂がイニシエーションを受けると(イニシエーションを受けるのは低我ではなくて、魂であることに注目)
彼は世界における最も親密なる組織の一部、すなわち、大白色聖同胞団の意識の大海と一つになる。

彼は、新参のイニシエイト(イニシエーションを受けた人)になったものの、
この結合組織の意味するもの全部は、長い間理解することはできない。

この繋がりがどんなに緊密なものであるか、
王御自身、すなわち世界主の意識(聖同胞方の全員、ある程度までこの意識を共有している)が
どんなに偉大なものであるか、を理解しうるまでには聖域の遥か奥深くまで
入っていかなければならないのである。

それはこの下界では理解不可能であり、表現不可能である。

それは言語の及ばぬほど形而上的であり、精妙である。

しかしそれにもかかわらず、一つの栄光輝ける実在である。

我々がそれを把握し始めると、他の全てが非実在に見える程、それは実在である。」

「得度者(イニシエイト)の意識の拡大には、驚嘆すべきものがあり、

その変わり方は、新生といった方がふさわしい程である。

彼は「小さき子供」として新しい生活、すなわちキリストの生活を送り始める。
キリストすなわちブッディ意識、直観が、彼の心臓の中で生まれたのである。」

誰か呼んだ？



「意識がブッディ体まで上がると、ある顕著な事がコーザル体に起きる。すなわち、コーザル体が消滅するのである。

そして得度者は、二度とそれをまとう必要に迫られることはなくなる。

しかし当然のことながら、下位の界層での彼のカルマが全部消え終わるまでは、それは起こりえない。

なぜならば、人間は下位の界層で

完全に無我になりきるまでは、因果の絆から逃れることはできないからである。」

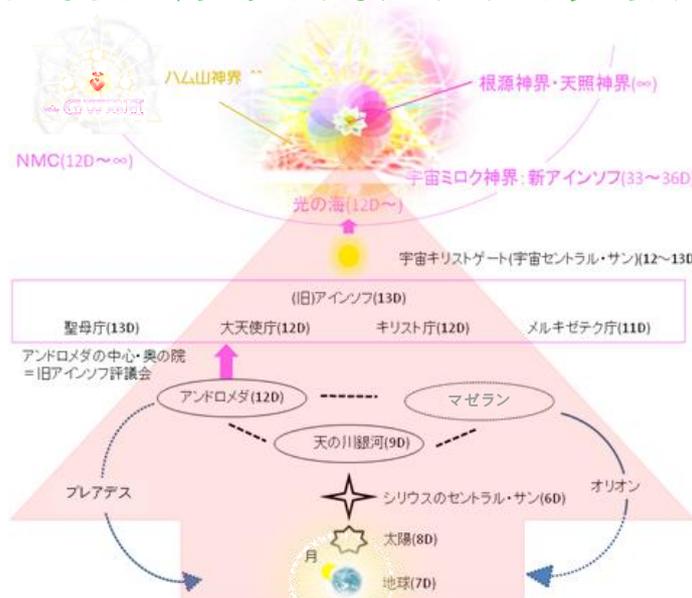
コーザル界層の更に上に存在するのが、ブッディ界層と呼ばれるものです

魂はコーザル体に存在して、人として数多くの輪廻転生を繰り返し、進化を続けてきましたが、
ようやく、そのサイクルから抜け出すことが出来るようです

が、輪廻転生システムは、もう存在していない？ようです…(注：地上セルフが感じている事として)
地球は古いシステムから脱皮(アセンション)し、新しい形のパラダイス、ミロクの世へと向かっている——、
私達は、その協働創造者でもあります！^^

ミロクの世とは、NMCの核心である根源天照皇太神の回りを囲む、それぞれの宇宙からアセンションした
36次元以上の神界によって構成されている“宇宙弥勒(ミロク)神界”の事とされます
地上の私達は神人となり、地球が弥勒の世となります(***)

「一度その道に入り、自分の全エネルギーをそれに集中すると、彼の進歩は加速される。
それは 2、4、6、8 というような算術級数的進歩ではなく、2、4、8、16 という幾何級数的進歩でもなく、
2、4、16、256 という累乗となる。この事実は熱心な求道者には、大きな励みとなるであろう。」
3次元社会に生きる私達の常識では、1+1=2であり、根源への回帰など、ただの妄想?! では?
一体どれ程の時間とパワーが必要なのか? 想像もつかない… という感じですが、
魂の光の波動(5次元以上)は、1+1=2ではなく、10、100、10000…と
指数関数的な、爆発的な広がり、∞のシナジーを巻き起こすと考えられるそうで
絶対にあり得ないことが起きてしまう——、
それが、これから到来する、“神人”の生きる、地上天国なのだと思います
どんなSF、ファンタジーよりもエキサイティングな、“ワクワク・ワンダーランド地球!” です(***)



《2021. 1 自己の宇宙MAP》

『天の岩戸開き』の中の図に、勝手に“ハム山神界”加えています(笑)^^

(すこし先を急ぎすぎたようで...) 以下は、コーザル界の上にある“ブッディ界”についての説明です

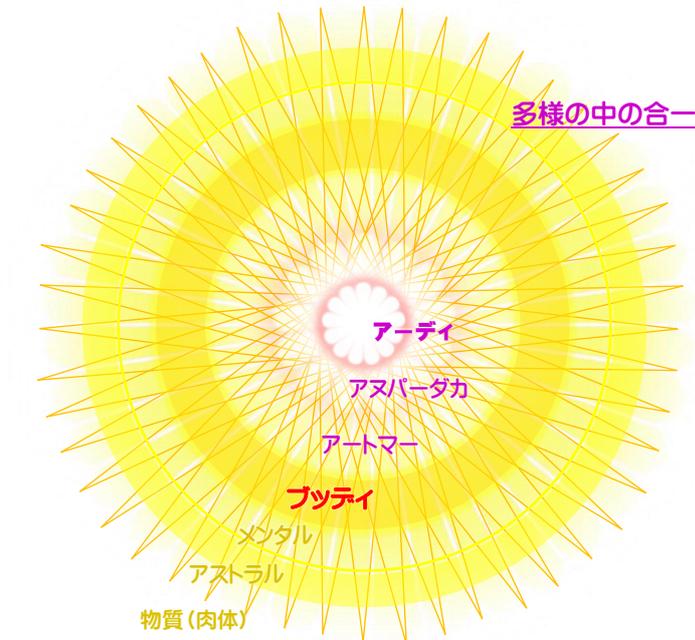
「ブッディ意識に達すると、唯一の意識(それは事実、神という唯一の意識である)が
ありとしあらゆるものを貫いていることを実感する。

そのような実感(悟り)に達すると、この上ない安らぎと確信と、およそ想像しうる限りの、
最も巨大なる推力と刺激とを感じる。

しかし初めは、この体験は驚きである、というのは、自分という存在が無くなっていく感じがするからである。」

《 ブッディ意識 》

ブッディ意識を見事に表現していると感じるのが、「多様の中の合一」とされる、作者不明の図です
少し(かなり?)違いますが、真似て描いてみました^^



中心であり、7界層のトップであるアーディ界から、無数に飛び出している三角が、人の意識を表しています
 最も外側、先端が物質界で、アストラル界、メンタル界と、中心に近づいていくにつれ、
 隣通しの三角形が接近していき、完全に重なってしまう(融合している)場所が“ブツティ界”とされ
 他の人との一体感を、現実を感じるどころと言われます

「意識がもっと高い界層へと昇ってゆくと、両側の者の意識とますます深く重なり、
 中心に達すると、ついにあらゆる意識が完全に合一する。

それでも個々の輻は存在を保ち、独自の方向と未来とを持っている。

下界に向かって外を見ると、各意識は違った方向をのぞいている。

が、それは、唯一の中心意識の一面なのである。

ところが内側に向くと、これらの様々の方向は全部出会って、互いに一体となる。

この一体感が、ブツティ界層の特徴である。この界層ではあらゆる制約が崩壊し始め、

人の意識は拡大し、ついに彼は、理論の上だけでなく、

実際に他人の意識は、自分自身の意識の中に含まれていることを知覚し、

彼らの中にあるものを、全て絶対的完全さをもって共感し、知り、かつ体験する。

というのは、それは実際に、彼自身の一部だからである。」

「コーザル体の顕著な要素が知識であり、終極的には英智であるように、

ブツティ体内の意識の顕著な要素は、至福であり、愛である。

前者の特徴は英智の静けさであるが、後者からは、最も親切なる慈悲が、無尽蔵に流れでる。」

この絵全体から連想されるのは...太陽?!

本当に、私達の住む世界(宇宙)は、“愛の太陽”そのものなのでした!^^

「分離が放棄され、一体が実現すると、彼は神の生命の中に融合し、

高尚な人たると、低卑な人たるとを問わず、いかなる同胞に対しても、彼の採りうる唯一の態度は、

愛だけであることを知る。」

「他の人が自分と違うからといって、他を責めることは全くなくなる、

その代り、前には隠れて見えなかった違いの原因が、今では見えるようになったので、

相手の違いは、自分自身の行為の別の現われ方であるという見方をするだけである。

悪しき人でさえも、自分自身の一部(弱い部分)に見えるようになる。

故に彼を責めるのではなく、自分自身の弱い部分に力を注ぎいれて、彼を助けること、
その事によって人類全体が逞しくなり、健康となることこそを願うようになる。
こうしてブッディ層に上がると、他の人々の経験を得ることができるようになるので、
個々別々の人間になって、あらゆる体験を積む必要はなくなる。」

他に対する愛と思いやりを持ち続ける事は、低我のレベルから見れば、時に難しいことでもあり

界層が上がる程逆風となり、困難もさらに増していく。。

何故か、そんなふうに思い込んでいた自分が、おかしくなりました

世界(宇宙)の美しさに、ホロリときます



私がこの『ハムのワクワク神智学(2)』に取組んでいる間も、色々なことがありました
私の日常を知ったら皆が笑うのでは？と思う程、失敗だらけで、夜見る夢までもが、なんとも情けなく。。

こんなことを書いていていいのか？(笑)と、何度も思いました

けれど、だからこそ私は絶対に諦めません！

何故ならば、私に出来る事は、みんなに出来る！！と思うからです

どんな人も、動物も、花や木、自然も、本当はとても優しい…、すべてが愛の化身と感じます

『神智学大要』を学ぶことによって、人の意識に限界はなく、皆が宇宙人でもあるのだと思いました

日本が、明治維新によって開国し、世界の国々の仲間入りを果たしたように

中今、一人ひとりと全体の意識の進化(アセンション)によって、大宇宙へと羽ばたく地球維神=“開星の時”が来た！

私達はここまで、本当によくやった！と言いたい気がします

そして、その私達の事を、忍耐強く支え続けてくれたのが、究極の愛の大地“地球”であり、∞大大感謝です m(_ _)m

地球も一つの生命体であり、私達はこの地球と共にアセンションする、協働創造者であり、運命共同体です

この地球こそが、NMCの雛型として準備された、全宇宙の希望の星でもあります

可能性は無限大！ 根源の究極の愛と光の宇宙船“地球号” 発進です！！ (*^^*)

